

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	学部/学科の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホウジン スギノガクエン 学校法人 杉野学園									
フリガナ大学の名称	スギノファッションダイガク 杉野服飾大学 (Sugino Fashion College)									
大学本部の位置	東京都品川区上大崎4丁目6番19号									
大学の目的	日本の洋装の黎明期に「モードの創造」を掲げた創設者の先進性を受け継ぎ、持続可能な開発目標の立場から服飾産業の発展に寄与できる能力を身につけさせ、グローバル産業やファッションの世界で専門職業人として活躍できる人材を育成する。									
新設学部等の目的	服飾文化の価値を次世代に継承、伝承する教育研究と、持続可能な社会のための新しい服飾文化の創造に向けられた教育研究を二本の柱とする学科である。世界および日本の服飾文化について歴史的文脈を意識した幅広い知識をもち、現代のファッションをめぐるさまざまな課題に挑戦し、多様性ある服飾文化の創造と持続的発展を目指す社会に貢献できる人材を養成することを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	服飾学部 [Faculty of Fashion]	年	人	年次人	人		年月第年次	東京都品川区上大崎4丁目6番19号		
	服飾文化学科 [Department of Costume and Culture Studies]	4	40	—	160	学士（服飾） [Bachelor of Fashion]	令和5年4月第1年次			
	計		40	—	160					
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	服飾学部服飾文化学科（定員増）（40）（令和4年3月認可申請） 杉野服飾大学短期大学部 服飾学科（廃止）（△50） ※令和4年4月学生募集停止、令和5年4月以降短期大学廃止申請予定									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
	服飾学部 服飾文化学科	講義	演習	実験・実習	計	124 単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新設	服飾学部 服飾文化学科	5 (5)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	7 (6)	3 (2)	78 (35)	
		計	5 (5)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	7 (6)	3 (2)	— (—)	
	既設	服飾学部 服飾学科	14 (14)	3 (1)	5 (7)	6 (6)	28 (28)	8 (8)	82 (82)	
		服飾学部 服飾表現学科	6 (6)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	9 (9)	1 (1)	54 (54)	
計		20 (20)	3 (1)	8 (10)	6 (6)	37 (37)	9 (9)	— (—)		
合計		25 (25)	3 (1)	10 (11)	6 (6)	44 (43)	12 (11)	— (—)		
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計			
	事務職員		24 (24)		11 (11)		35 (35)			
	技術職員		13 (13)		8 (8)		21 (21)			
	図書館専門職員		3 (3)		0 (0)		3 (3)			
	その他の職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	計		40 (40)		19 (19)		59 (59)			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	18,741 m ²	0 m ²	0 m ²	18,741 m ²					
	運 動 場 用 地	6,668 m ²	0 m ²	0 m ²	6,668 m ²					
	小 計	25,409 m ²	0 m ²	0 m ²	25,409 m ²					
	そ の 他	3,189 m ²	0 m ²	0 m ²	3,189 m ²					
合 計	28,598 m ²	0 m ²	0 m ²	28,598 m ²						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		21,390 m ² (21,390 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	21,390 m ² (21,390 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	19 室	7 室	52 室	9 室 (補助職員一人)	— 室 (補助職員一人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		服飾学部 服飾文化学科		7 室						
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学科単位での特定不能なため、 大学全体の数		
	服飾文化学科	82,636 [13,476] (81,836 [13,396])	252 [81] (248 [79])	0 [0] (0 [0])	2,912 (2,896)	0 (0)	0 (0)			
	計	82,636 [13,476] (81,836 [13,396])	252 [81] (248 [79])	0 [0] (0 [0])	2,912 (2,896)	0 (0)	0 (0)			
図書館		面積		閲覧座席数	取 納 可 能 冊 数		大学全体			
		1,380 m ²		159	130,000					
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体			
		720 m ²		該 当 な し 該 当 な し						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	届出学科全体	
	経費の見積り	教員1人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	—		—
		共同研究費等		500千円	500千円	500千円	500千円	—		—
		図書購入費	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—		—
		設備購入費	400千円	1,060千円	930千円	1,380千円	400千円	—		—
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
1,460千円		1,060千円	1,060千円	1,060千円	—	—				
学生納付金以外の維持方法の概要		事業収入、雑収入、等								
大 学 の 名 称 杉野服飾大学										
既 設 大 学 等 の 状 況	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	大学全体
	服飾学部	年	人	年次 人	人		0.81		東京都品川区 上大崎4丁目6番19号	
	服飾学科	4	200	3年次 30	860	学士(服飾)	0.86	昭和39年度		
	服飾表現学科	4	40	—	160	学士(服飾)	0.62	平成30年度		
造形研究科 造形専攻	2	10	—	20	修士(造形)	0.4	平成24年度	東京都品川区 上大崎4丁目6番19号		
大 学 の 名 称 杉野服飾大学短期大学部										
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	令和4年4月より 学生募集停止	
服飾学科	2	—	—	—	短期大学士 (服飾)	—	昭和25年度	東京都品川区 上大崎4丁目6番19号		
附属施設の概要		名称： 杉野学園衣裳博物館 目的： 服飾の研究 所在地： 東京都品川区上大崎4丁目6番13号 設置年月： 昭和31年8月31日 規模等： 土地 409.98m ² 建物 647.25m ²								

教育課程等の概要

(服飾学部服飾文化学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目 (服飾関係)	必修科目 服飾造形基礎Ⅰ	1前	3				○		1		1		1	共同
	サステイナブル・ファッション概論	1前	2			○			3		1		1	オムニバス
	ファッション画Ⅰ	1前	1				○							兼2
	ファッションビジネス概論	1前	2			○								兼1
	ファッション・フィールド・リサーチ	1前	1				○							兼1
	フィールドワーク(集中)	1前	1				○		4					集中・共同
	服飾造形基礎Ⅱ	1後	3				○		1		1		1	共同
	西洋服飾文化史	1後	2			○			1					
	衣服材料学	1後	2			○								兼1
	ドローイングⅠa	1後	2				○							兼1
	色彩演習	1後	2			○								兼1
	リ・ファッション実習	2前	2					○	1				1	
	服飾史料研究	2前	1				○				1			
	日本服飾文化史	2前	2			○			1					
	ファッション史	2前	2			○			1					
	アパレル素材論	2前	2			○								兼1
	CADパターンメイキング	2前	1				○							兼1
	レプリカ製作(民族衣装)	2後	2					○			1		1	
	民族衣裳論	2後	2			○			1					
	ファッションと環境	2後	2			○								兼1
	ユニバーサルファッション論	2後	2			○								兼2
	現代ファッション論	2後	2			○			1					オムニバス
	マーケティング・データサイエンス論	2後	2			○								兼1
	レプリカ製作(歴史衣装)	3前	2					○	1		1		1	共同
	衣の伝統と現代Ⅰ(衣の民俗文化)	3前	2			○			1					
	服飾文化演習A	3前		1			○		1					
	服飾文化造形演習A	3前		1				○	1				1	
	レプリカ製作特講	3前	1			○								兼1
	エシカル・ファッション実習	3後	2					○	1				1	
	衣の伝統と現代Ⅱ(衣のものづくり)	3後	2			○								兼1
	服飾文化演習B	3後		1			○		1					
	服飾文化造形演習B	3後		1				○	1		1		1	
	衣服修復技術	3後	2			○								兼1
	卒業研究Ⅰ(制作)	4前		2				○	2		1		1	共同
	卒業研究Ⅰ(論文)	4前		2				○	2					共同
	卒業研究Ⅱ(制作)	4後		2				○	2		1		1	共同
	卒業研究Ⅱ(論文)	4後		2				○	2					共同
小計(37科目)		—	54	12	0		—	30	0	9	0	10	兼16	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目 (服飾関係)	選択科目 服飾造形応用	1後		2			○		1		1				共同
	人体工学論	1前		2		○									兼1
	現代デザイン論	1前		2		○									兼1
	ファッション販売論	1前		2		○									兼2
	流行論	1後		2		○									兼1
	流通・商業入門	1前		2		○									兼1
	ファッション画Ⅱ	1後		1			○								兼2
	経営学入門	1前		2		○									兼1
	画像設計演習	2前		1			○								兼1
	ドローイングⅡ	2前		1				○							兼1
	写真表現演習	2前		1			○								兼1
	立体造形演習	2後		1			○								兼1
	和服構成論・実習Ⅰ	2前		1				○							兼1
	和服構成論・実習Ⅱ	2後		1				○							兼1
	衣服管理	2前		2		○									兼1
	染色化学	2後		2		○									兼1
	繊維ファッション産業構造論	2前		2		○									兼1
	映像制作	2後		1				○							兼1
	基礎デザイン(平面)	2前		1			○								兼1
	基礎デザイン(立体)	2後		1			○								兼1
	ファッション販売論上級	2後		2		○									兼1
	色彩実践学	2後		2		○									兼1
	色材演習	2後		1			○								兼1
	服飾手芸(ニットを含む)	2後		1				○							兼2
	服飾クラフト	2前		1				○							兼2
	服飾デザイン概論	2前		2		○				1					
	デザインプロセス	2前		1			○								兼1
	消費者行動論Ⅰ	2後		2		○									兼1
	グローバルマネジメント特論Ⅰ	2後		2		○									兼1
	インターンシップ	2後・3前・後		2				○							兼1
	長期インターンシップ	2後・3前・後		4				○							兼1
	ショップディスプレイ	3後		2		○									兼1
	メディアコミュニケーション論	3前		2		○									兼1
	ファッション画(CG)	3後		1				○							兼1
	アパレル産業論特講	3後		2		○									兼1
	染織史	3前		2		○									兼1
	ファッションプレゼンテーション演習	3前		2			○								兼1
	ト・レ・ビ・ソ・ク & パターニング(選)	3前		1				○							兼1
	近代日本モード史	3前		2		○				1					
	リテールビジネスにおけるVMDマネジメント	3前		2		○									兼1
	コミュニケーション論	3前		2		○									兼1
	現代流通論	3前		2		○									兼1
小計(42科目)		—	0	70	0	—	—	—	3	0	1	0	0	兼43	—
専門科目 (ライフスタイル関係)	選択科目 家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む)	2前		2		○									兼1
	家庭電気・機械	2前		1		○									兼1
	食物学(実践栄養学)	2後		2		○									兼1
	家庭情報処理	2後		1		○									兼1
	食物学(食品学)	3前		2		○									兼1
	住居学(製図を含む)	3後		2		○									兼1
	保育学(実習及び家庭看護を含む)	3後		2		○									兼1
	食文化論	3前		2		○									兼1
	食物学(調理実習・実験)Ⅰ	3前		1				○							兼2
	食物学(調理実習・実験)Ⅱ	3後		1				○							兼2
小計(10科目)		—	0	16	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼12	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目 (必修科目)	初年次	学習基礎	1前	2			○			1					兼10	オムニバス
	キャリア	文章表現	1前	2			○								兼1	
		情報演習Ⅰ (学修ポートフォリオを含む)	1前	2				○							兼1	※講義
		情報演習Ⅱ (学修ポートフォリオを含む)	1後	2				○							兼1	※講義
		キャリアプランニング	2後	2			○								兼1	
		小計 (5科目)	—	10	0	0	—	—	—	1	0	0	0	0	兼14	—
教養科目 (選択科目)	一般	社会人基礎A	1前		2		○								兼1	
		社会人基礎B	1後		2		○								兼1	
		心理学A	1・2前		2		○								兼1	
		心理学B	1・2後		2		○								兼1	
		文学	1後		2		○								兼1	
		日本美術史	1後		2		○								兼1	
		西洋美術史	1前		2		○								兼1	
		憲法	1・2前		2		○								兼1	
		社会福祉学A	1・2前		2		○								兼1	
		社会福祉学B	1・2後		2		○								兼1	
		化学A	1・2前		2		○								兼1	
		化学B	1・2後		2		○								兼1	
	体育	体育A	1前・後		1			○							兼1	
		体育B	1・2後		1			○							兼1	
	国際関係	言語と服飾文化	3・4前		2		○								兼2	共同
		日本文化・日本事情Ⅰ	1前		2		○								兼1	
		日本文化・日本事情Ⅱ	1後		2		○								兼1	
		英語 (総合)A	2前		2		○								兼1	
		英語 (総合)B	2後		2		○								兼1	
		ワールド・カルチャーA	2前		2		○								兼1	
		ワールド・カルチャーB	2後		2		○								兼1	
		実用英語 A	2前		2		○								兼1	
		実用英語 B	2後		2		○								兼1	
		ファッション英語 A	2前		2		○								兼1	
		ファッション英語 B	2後		2		○								兼1	
		フランス語 (総合) A	2前		2		○								兼1	
		フランス語 (総合) B	2後		2		○								兼1	
		ファッションフランス語 A	2前		2		○								兼1	
		ファッションフランス語 B	2後		2		○								兼1	
		中国語 (総合) A	2前		2		○								兼1	
		中国語 (総合) B	2後		2		○								兼1	
		中国語 (会話) A	2前		2		○								兼1	
		中国語 (会話) B	2後		2		○								兼1	
小計 (33科目)		—	0	64	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼34	—	
教養科目 外国語		英語 (総合)Ⅰ	1前		2		○								兼1	
	英語 (総合)Ⅱ	1後		2		○								兼1		
	基礎英会話Ⅰ	1前		2		○								兼1		
	基礎英会話Ⅱ	1後		2		○								兼1		
	フランス語 (総合)Ⅰ	1前		2		○								兼1		
	フランス語 (総合)Ⅱ	1後		2		○								兼1		
	フランス語 (会話)Ⅰ	1前		2		○								兼1		
	フランス語 (会話)Ⅱ	1後		2		○								兼1		
	中国語 (総合)Ⅰ	1前		2		○								兼1		
	中国語 (総合)Ⅱ	1後		2		○								兼1		
	中国語 (会話)Ⅰ	1前		2		○								兼1		
	中国語 (会話)Ⅱ	1後		2		○								兼1		
	日本語Ⅰ	1前		4		○								兼1		
	日本語Ⅱ	1後		4		○								兼1		
小計 (14科目)	—	0	32	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼14	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教職に関する科目	教師論	1後			2	○									兼1	共同 ※演習 ※演習
	教育心理学	1後			2	○									兼1	
	教育制度論	1後			2	○									兼1	
	教育原理	2前			2	○									兼1	
	教育課程論	2前			2	○									兼1	
	特別支援教育概論	2前			2	○									兼1	
	道徳の指導法	2後			2	○									兼1	
	生徒指導論(進路指導を含む)	2後			2	○									兼1	
	教科教育法基礎 (家庭)	2後			1	○									兼1	
	教育現場でのICT活用	2後			1	○									兼1	
	特別活動の指導法	3前			2	○									兼1	
	教育方法論	3前			2	○									兼1	
	家庭科教育法 (基礎)	3前			2	○									兼1	
	総合的な学習の時間の指導法	3後			2	○									兼1	
	家庭科教育法	3後			2	○									兼2	
	教科教育法 (家庭)	3後			3	○									兼1	
	教育法規	3後			2	○									兼1	
	教育相談 (カウンセリングを含む)	3前			2	○									兼1	
	教育実習 (事前事後指導を含む)	4前			5			○							兼1	
	教職実践演習 (中等)	4後			2		○								兼1	
小計 (20科目)	—	0	0	42	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼21	—	
博物館に関する科目	生涯学習概論	1後			2	○									兼1	—
	博物館概論	1後			2	○									兼1	
	博物館経営論	2前			2	○									兼1	
	博物館資料論	2前			2	○									兼1	
	博物館資料保存論	2後			2	○									兼1	
	博物館展示論	3後			2	○									兼1	
	博物館教育論	3前			2	○									兼1	
	博物館情報・メディア論	3後			2	○									兼1	
	博物館実習	4通			3			○							兼1	
小計 (9科目)	—	0	0	19	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼9		
合計 (250科目)		—	64	194	61	—	—	—	34	0	10	0	10	兼163	—	
学位又は称号	学士 (服飾)	学位又は学科の分野			家政学関係											
卒業要件及び履修方法					授業期間等											
専門必修科目54単位、専門選択必修科目6単位、専門選択科目から30単位以上を修得、さらに教養必修科目10単位、外国語8単位、教養選択科目から16単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録上限:55単位(年間))					1学年の学期区分			2学期								
					1学期の授業期間			15週								
					1時限の授業時間			45分								

授 業 科 目 の 概 要				
(服飾学部服飾文化学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 科目 (服飾 関係)	服飾造形基礎 I	服飾造形のスカートに関する製図方法と基礎的な知識や技術を修得する。服飾造形の基本アイテムとしてスカートのパターンメイキング、縫製方法を学修し、制作プロセスを理解する。 授業ではミシンの基本操作、手縫いの方法を学び、実物製作に入る前にスカートについてのリサーチを行い発表する。実物製作は6週に分け、その後は応用として基本スカートからの展開で製図を行う。最終授業では製作したスカートのプレゼンテーションを行う。 以上の過程で基本アイテムにおける服の構造を学修する。	共同	
	サステイナブル・ファッション概論	近年、私たちの社会や暮らしにおいて、「サステイナブル」な考え方や行動や「エンカル消費」が求められている。「サステイナブル(持続可能な)」とは将来にわたって地球環境や社会・人に配慮するということであり、「エンカル(倫理的な)」という言葉は環境、人権、地域社会、産業文化を損なわないあり方という意味を含んでいる。 本講義では、ファッションにおける「サステイナビリティ」とはどのようなあり方なのか、「エンカル」なファッションとはどのようなものか、モノとしての衣服の持続性だけでなく文化としての服飾の持続性について、生産者・販売者・消費者のそれぞれの視点から考え、理解を深める。それを通して新たなファッションを提案するための基礎力を培う。 (オムニバス方式/全15回) (1 梅谷 知世/3回) 日本の近世・近代における「循環型衣生活」、および日本の伝統技術と現代のファッション産業との繋がりについて理解し、服飾文化の持続的発展について考える。 (2 鈴木 桜子/3回) 歴史にみるサステイナブル・ファッションについて、事例をあげて解説し、時代背景の違いによる「サステイナビリティ」の考え方の変遷をたどる。 (4 井口 多恵子/6回) 現代社会におけるサステイナブル・ファッションのあり方について、環境・社会・人権の3つの観点から理解し、ファッション関連企業におけるサステイナビリティへの取り組みの状況を知るとともに、これからのサステイナブル・ファッションの可能性について、アップサイクルを中心に考える。 (6 菅野 もも子/3回) 服飾史料の保存・活用の観点から博物館・美術館におけるファッション展の取組みについて事例を紹介し、持続可能な服飾文化の継承の在り方について考えていく。	オムニバス方式	
	ファッション画 I	ファッションイメージを的確に表現し伝達するために、人体のプロポーション・服の構造・生地や素材・服の型のみを描く。ハンガーイラストの表現を学び、人体と服についての理解を深める。具体的にはポーズのバリエーション、顔のプロポーション、肌・ヘアスタイル・メイクの着色、シャツとスカートの着装、ハンガーイラスト、ワンピースの着装を学ぶ。 本授業では、基本のプロポーション(8頭身)にそって、服のバランスを的確に描くこと、服の構造やディテールの理解、ハンガーイラストを修得できるようになることを目指す。		
	ファッションビジネス概論	ファッションビジネスは、商品でクリエイションを表現する一方で、顧客満足と企業の利益の双方を実現することを目的としている。日本の繊維・アパレル業界は21世紀に入り、小売の業態転換、Webビジネスの発展が顕著であり、ファッションビジネスは変革期を迎えている。服飾大学に学ぶ学生は、将来、ファッション業界で働くということを前提に、基本的な業界構造の全体像と歴史を学び、川上から川下までの機能と役割を理解する。担当教員の10年以上のアパレル企業での実務経験を活かし、現場の話を中心に授業を展開していく。さらに、昨今の海外展開やオンラインビジネスなど、ニューノーマルなファッションビジネスを学んでいく。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (服飾関係)	必修科目 ファッション・フィールド・リサーチ	授業内で都内の主要なファッション・リテール（小売）の店舗に行き、リサーチを行なう。ブランド別の商業施設の種類（ファッションビル、駅ビル、セレクトショップ、郊外型ショッピングモールなど）の分類を把握する。さらに、各ブランドのシーズンのファッショントレンド情報の分析や、リサーチするブランドの店舗立地や、その立地ならではのMD構成、売れ筋商品も分析する。定点観測も実施しながらリアルトレンドを把握する。 このリサーチにより、下記の事を学ぶ。 ①東京の主要な街の様子を理解する。②東京の主なファッション商業施設と業態を知る。③アパレル業界の中で有名な企業ブランドを知る。④店頭を見る事で、シーズントレンド（色/柄/素材）を把握する。⑤各店頭VMDで打ち出すキーワードを知る（コーデイネイト、アイテム、カラーetc)	
	フィールドワーク（集中）	国内外の服飾文化、またそれに関わる歴史・民俗文化の継承のあり方について、首都圏を中心として博物館・美術館、郷土・民俗資料館等の見学研修を行う。服飾資料やそれに関連する歴史資料をどのように扱っているのか、資料価値の視点、資料の取り扱い方、調査・研究への取り組み、保存と情報公開、歴史文化の継承に取り組む実際を見聞し、現在の問題と課題、今後の服飾文化の継承について考える機会とする。事前学習として学びの目的と課題を明確にし、見学先では学芸員・職員からの講義を受け、事後学習として課題認識を高めていくためのディスカッションの場を設けていく。	共同
	服飾造形基礎Ⅱ	服飾造形のブラウスに関する製図方法と基礎的な知識や技術を修得する。 実物製作に入る前にブラウスについてのリサーチを行い発表し、1/2大で基本製図（身頃・ショールカラー・袖）、応用製図（タイトスリーブ）を行う。実物製作は6週にわけ、その後は襟・袖各種の製図方法を学ぶ。授業最終日には製作したブラウスのプレゼンテーションを行う。 以上より、服飾造形の基本アイテムとしてブラウスのパターンメイキング、縫製方法を学修し、制作プロセスを理解することを目指していく。	共同
	西洋服飾文化史	現在、私たちは洋服を着た生活をしている。しかし日本における洋服の歴史は短く実質100年の歩みでしかない。私たちが日本で洋服を着るようになるその背後には、西洋文化の中で培われてきた何千年もの歴史があることを理解しなければならない。 本授業では、有史以来、民族、地域、風土、宗教によって形成されてきた西洋文化を服飾の視点から探っていく。また、身体-衣服-空間の視点から時代の美しさを表わしてきた芸術・建築様式との関連性を重視し、服飾の歴史にまつわる幅広い見識を持てるように授業展開をしていく。	
	衣服材料学	衣服を構成する要素として衣服材料は重要な役割を果たしており、衣服材料の知識は服飾に関するすべての分野において必要な基本知識である。衣服材料の物理的・化学的性質を理解し、それぞれの特徴を把握することは、衣服を作り出していく上で重要な基礎となることを、身近な材料として興味を持ちながら身につけていけるように配慮する。 衣服材料の基礎的知識の習得により、衣服の設計製作において目的に応じた適切な材料の選択ができ、自分の着ている衣服の素材や店頭の衣服に用いられている材料について、説明できるレベルの到達を目指す。また、衣服材料を詳しく理解することでその着心地や管理方法にも関連づけて興味を持てることを目標とする。	
	ドローイングⅠa	1.「立体」としての形態の把握。2.服飾造形の出発点である「人体の形態」の知識を、身に付ける。この授業では、紙の上に「描画（ドローイング）」しながら、美術解剖学をベースにした人体骨格のイメージを「知識」として身に付けていく。この二点の相関関係を体験しながら授業は進行されていく。 1.服飾造形に必要な最低限度の人体形態の知識を「身体的」（言語ではなく、作画の動作によって）に染みこませることが可能となる。「知る」ことによって「描ける」ようになり、「描ける」ようになることで、体感的に「知る」こととなる。2.運動に近い描画という行為（ドローイング）を訓練することで、見たこと、思いついたこと、そして感じたことをダイレクトに表現（＝絵を描くこと）することが出来るようになる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (服飾関係)	必修科目 色彩演習	モノは「カタチと色」で成り立っている。全ての造形において「色」は重要な要素であり、造形に関わる全ての課題に必要な不可欠である。グラフィックデザイナーとして活動しながら、ファッション色彩能力検定にも携わる教員が担当し、今後「色」を扱う際の共通言語を学び、「色」が持つ特性を客観的な観点から理解する。 色に関して十分な実技経験がある者、もしくは理論的な知識がなくても美しい配色ができる者であれば色彩学を学ぶ必要はないが、そうでない場合は色彩の知識を学ぶ必要がある。この授業では経験と知識を身に付けるために11課題全てにおいて双方向型授業を行い、個別の質問に対応しながら微妙なニュアンスも感じ取れるように学習する。	
	リ・ファッション実習	1年次「サステイナブル・ファッション概論」、2年次「ファッションと環境」で得た知識をもとに、アパレル業界のさまざまな業種のゲスト講師から環境に配慮している取り組みや活動、現状を学んでいく。それらの取り組みを理解したうえで古着や不用衣料品から環境に配慮しアップサイクルになる衣料品について考え、新たな提案をしていく。実際に古着や不用衣料を利用した製作をすることによって、環境へのさまざまな取り組みについて興味を持ち、自らの視野と創作活動の幅を広げていくことに繋げていく。	
	服飾史料研究	1年次の「西洋服飾文化史」、2年次の「ファッション史」(前期)で得た知識を基本にして、本学博物館所蔵の実物資料や図書館の文献資料を用いながら時代の服飾について理解を深めていくことを目的とする。通常の博物館展示では見ることのできない服飾品の構造・素材・装飾や縫製技術を知り、また当時の服飾表現がされているファッションプレート等、画像資料から時代の傾向や美意識を捉えていく。 対象とする服飾史料は、本学衣裳博物館・附属図書館所蔵の近世～近代の中から適当なものを選び、資料に応じた他大学、学外の博物館等での資料調査も併せて行っていく。	
	日本服飾文化史	アジアの東端に位置する日本は、古代より中国をはじめとする諸外国の影響を受けながら、独自の美意識に基づく豊かな服飾文化を作りだし成熟させてきた。この講義では、服飾・染織品の実物資料、文献資料、画像資料などを用いて古代から近代にいたる日本服飾の移り変わりを概説する。さらに、各時代の服飾の特質を政治や社会との関係、造形性、美意識、同時代の演劇・美術・文芸との関連性、外国文化の影響などさまざまな視点から捉え、服飾の多様なあり方について考えていく。	
	ファッション史	私たちがいま着ている現代衣服の源流は、およそ100年前に遡る。その間、オートクチュールの世界では多くの革新的なデザイナーが誕生し、流行のファッションが繰り広げられてきた。しかし、一見、一過性の流行と思われがちその現象の背後には、政治的・社会問題や同時代の芸術・デザイン運動との関連性が見受けられ、装いの歴史だけでは語れない諸領域との相関関係の中にファッションの歴史がある。 本授業では、近現代を中心に、デザイン諸領域の動向を理解しながら、服飾デザインの理論とその歴史性を探っていくことを方針とする。	
	アパレル素材論	アパレルに使用される布に焦点を当て、基本的な知識、専門用語を理解するために説明する。応用力を育成するために、実物サンプルを提示しながら解説し、理解を深める。素材に関する知識と素材そのものが持つ手触りや布の表情など、服飾造形を作り出す素材に関心を寄せ、布の種類や構造を理解し、アパレル素材の基本的な知識を修得することを方針とする。 基本的な素材の名称や性質、専門用語、織物やニット生地に関する知識を修得することができるようになる。	
	CADパターンメイキング	CAD (Computer Aided Design) の基本操作を学び、平面パターン設計を学修することを方針とする。CADの簡単な操作方法から学び、パターン設計→アパレルでの流れも学修する。 本授業では、CADの基本操作とアパレルに必要な総合的なCADシステムの使用方法を修得する事を目標とする。具体的な授業内容として、ダーツの展開、袖、ギャザースカート、キュロットスカート、工業用パターンについて学んでいく。 本授業でCADによるパターン設計を修得することにより、服飾造形の基礎力の向上につなげていく。	
	レプリカ製作 (民族衣装)	世界各地の民族服飾には、それぞれの自然環境や文化環境 (信仰、生活様式、異文化接触、社会状況、科学の発展等) に合わせた素材や形態、織・染め・刺繍などの技法や文様が見られる。 この実習では、杉野学園衣裳博物館等に所蔵される民族服飾について、まず、素材・染織・構造・縫製技術・着装等の調査・分析・考察を行う。次に、そこから得られた知見の中でもとくに構造と縫製技術に見られる工夫に着目してレプリカ制作を行う。この制作を通して、洋服や和服だけではなく服飾の多様な在り方について理解を深める。さらに、民族服飾から現代ファッションへの展開についての可能性を探っていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (服飾関係)	必修科目 民族衣裳論	世界各地の民族服はそれぞれの自然環境や文化環境の中で生まれ、時代とともに変化しながら今日に受け継がれてきた。 この授業では、アジアを中心にアメリカやヨーロッパなど世界の民族服を取り上げ、人びとの手仕事によってつくられてきた民族服の形、素材、織・染め・刺繍などの技法、文様について学ぶ。また、民族服がどのような背景の中で成立し変化してきたのか、そして、民族服が民族にとってどのような意味をもつのかという問題について、背景にある気候風土や暮らし、信仰、異文化交流などを含め多様な視点から考えていく。	
	ファッションと環境	1960年代以降の既製服産業の発展に伴い、ファッション業界では大量生産・大量消費・大量廃棄のシステムが作られた。このようなファッション業界の在り方は地球環境に与える影響が大きく、国際的な課題となっている。 本講義では、衣服の生産から着用、廃棄に至るプロセスにおける環境負荷について、正しい知識を得るとともに、環境負荷を低減させるための取り組み(3R+R、トレーサビリティ等)について、企業と消費者の双方の視点から考える。また、企業におけるファッションのサステイナビリティへの取り組みの実例について、国内および欧米各国の動きを理解する。(3R+R=リデュース・リサイクル・リユース・リペア)	
	ユニバーサルファッション論	1980年代にアメリカのロナルド・メイスの提唱によって取り込まれるようになったユニバーサルデザイン(文化・言語・国籍・年齢・性別や能力などにかかわらず、できるだけ多くの人々が利用可能なデザイン)は、身の周りの生活用品から都市環境に至るまで広く浸透してきた。一方で1990年代に入ってファッション分野でもユニバーサル・ファッションとして取り込まれるようになったが、個人の身体や趣味・嗜好との関係性が強いファッションは、ユニバーサルなものとして捉えにくいところもあり、多くの課題が山積している。 授業では、これまで取り込まれてきたユニバーサルデザインとユニバーサル・ファッションの実例を通してこれからのユニバーサルなファッションの可能性を考えていく。 (オムニバス方式/全15回) (31 笹崎 綾野/8回) ユニバーサルファッションの基本理念を抑え、日本及び世界での取り組み状況を紹介し、実際の衣服設計の考え方を理解する。 (32 終 伸江/7回) 実際に福祉活動をしている立場からユニバーサルデザイン及びユニバーサルファッションの実例を通して、社会におけるユニバーサルサービスの意義と役割を考えていく。	オムニバス方式
	現代ファッション論	「ファッションとは何か?」この問いに答えるのは容易ではないだろう。ファッションは私たちにとって最も身近な存在でありながら、個人と社会、歴史、文化、思想等のあらゆる領域と複雑に絡み合いながら現在に至っている。 本授業では、衣服と直接的な身体との関係、社会現象としての流行とメディアとの関係、さらに様々な視点からファッションの現代的意味を問う展覧会に焦点をあて、「ファッション」について深く考えていくきっかけを持つ場としたい。 授業進行の上では、「ファッション」についてテーマに応じたグループ・ディスカッションを行い、自己と他者の視点・論点を踏まえながら自らのファッション論を導き出すことを目標とする。	
	マーケティング・データサイエンス論	データサイエンスに関する社会状況や技術の概要を理解しつつ、ビジネスにどのように活かせるのかを学ぶ。特にアパレルにおけるデータサイエンスへの取り組みは、マーケティング活動を中心に極めて積極的に必須となっているため、事例を交えて学んでいく。 ・データサイエンスとは、そして必要性の背景 ・データサイエンスで生み出されるビジネス価値と活用事例 ・統計学 ・A I /深層学習(ディープラーニング) ・データサイエンスの倫理的留意 ・発展的課題と今後の方向性	
レプリカ製作(歴史衣装)	「西洋服飾文化史」「ファッション史」更に「服飾史料研究」で得た知見をもとに歴史衣装製作を行う。西洋の歴史衣装の場合、ドレスの構造理解が必須であり、コルセットやパニエ等のアンダーウェアについても製作実習を行う。近年国内外問わず博物館所蔵の歴史衣装の実物調査研究が進んでおり、パターンブックも多数出版されているため、これらをテキストとして用い、実物大の再現製作をグループワークで行う。この製作実習を通して西洋のドレスの構成と構造を理解すると共に、近年レプリカ展示が目立って重要視されている博物館等での服飾品の扱いについて考え、次世代への歴史文化の継承に繋げていく視野を養っていく。	共同	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (服飾関係)	必修科目 衣の伝統と現代Ⅰ(衣の民俗文化)	日本各地では、「きもの」とともに風土に根差した染や織の技術が発展し、手仕事により丁寧に布を作り大切に用いる文化が、人びとの暮らしの中で育まれてきた。衣をめぐるこれらの民俗文化は、近代化による生活スタイルの変化や服飾産業の工業化等によって急速に衰え存亡の危機に瀕しつつも、国や地域における保存・伝承の取り組み等により今日まで受け継がれてきた。 本講義では、民藝運動を主導した柳宗悦が『手仕事の日本』(昭和前期執筆)で取り上げた各地の染や織に着目し、それらの伝統的な染織文化について、独創的な技法や意匠の特色を歴史的展開も含めて理解するとともに、次世代への発展的な継承の在り方と、新たな価値の創出について考える。	
	服飾文化演習A	これまでの学修を踏まえ、演習形式で「服飾文化」を総合的に捉えていく。学期前半では、欧米における時代の芸術やデザインが時代の美意識を生み出していった背景を踏まえながら、芸術家・デザイナー、企業等による創作活動や社会活動に着目した演習テーマを個々に取り上げていく。その際、これらの作品や活動に関する資料や文献を調査し、講読をしながら、演習テーマに関するディスカッションを行い、服飾文化に対する客観的な視点の捉え方を学んでいく。 学期後半では、服飾文化の継承について、有形無形を問わず問題提起をし、それに対する調査・報告を交えてディスカッションを行う。 これらの演習を通して、文化としての服飾のサステイナビリティについて理解を深め、卒業制作・研究のテーマを絞ってゆく。	
	服飾文化造形演習A	2年次までの専門科目「サステイナブル・ファッション概論」「ファッションと環境」「ユニバーサル・ファッション論」「衣の伝統と現代Ⅰ・Ⅱ」「リ・ファッション実習」等の学修を踏まえ、現在、ファッション産業において喫緊の課題となっているSDGsへの取り組みについて、主に3R+R=リデュース・リサイクル・リユース・リペアの観点から事例をあげながら理解を深めていく。そしてそこから導き出される現在の課題の解決に向けて製作をする立場から素材、機能性やデザイン、技術等に関してディスカッション・プレゼンテーションを行う。これにより、卒業研究の制作テーマを絞り、制作に向けられた研究方法の検討を行っていく。	
	レプリカ製作特講	過去のパターンや縫製を知ることにより、現代の作品にはないパターン形状や縫製の考えを探ることができる。本学衣装博物館にはフランスオートクチュールの祖であるシャルル・フレデリック・ウォルトのイヴニングドレスがある。経年劣化で痛みが激しく、2010年に『現代衣裳の原点を探る—ウォルト作品の復元—』杉野服飾大学平成19～21年度私立大学学術高度化推進事業オープンリサーチセンター研究報告として現代の技術で出来る限り生地、作図、縫製を行い、復元をした。また2013年には本学衣装博物館にあるジャック・ドゥーゼのジャケットとスカートの服飾造形調査研究を行い、紀要に掲載した。その時得た調査方法や知見をもとに体型を形づける衣服の構造やパターン、縫製から、現代の服の作りと比較しその後現代衣装に発展する考え方、研究方法などの技術を学ぶ。	
	エシカル・ファッション実習	1年次「サステイナブル・ファッション概論」「服飾造形基礎Ⅰ・Ⅱ」で得た知識と技術をもとに衣服の持続性の実践として衣服の解体を行い、平面の形状を観察することで、素材、デザイン、パターン、縫製方法など、服の構造の理解につなげていく。これにより、解体後の衣服から新しいものを提案していくアップサイクル品の制作や現状に戻す技術(修理またはリペア)を学修することができる。授業構成としては、実習授業に加え、衣服の持続性に取り組むクリエイターの講義、企業見学の実施、産学・地域連携事業を組み込んでいく。	
	衣の伝統と現代Ⅱ (衣のものづくり)	日本では、時に外国の影響も受けながら、衣にかかわる多様な染織品がつくられてきた。それらの技術の特色と表現効果、意匠との関係を、歴史展開も含め理解し、今日における発展的な継承のあり方と、新たな価値の創出について、ものづくりの現場にも触れながら考える。具体的には、①日本の染織技法の種類と歴史的展開に関する基礎知識を意匠との関係に注目して修得する。授業内で実物資料を多数提示、技法、意匠の特色を体験的に学習する。②今日の具体的な事例を通して、伝統染織の継承と商品としての新展開の可能性について考える。伝統的な技法による商品企画、下絵、染色型紙製作、染織加工などの現場見学や、実務家のレクチャーなどを取り入れ、今日の伝統染織業界の抱える問題、伝統産業振興策、新たな取り組みなどに触れて広い視野に基づく提案力を養うことを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (服飾関係)	必修科目 服飾文化演習B	演習の前半では、日本の伝統的な服飾文化や世界の民族服飾を創造の源としたファッションの在り方について、具体的な作品やデザイナーの活動に着目し、これらの作品や活動に関する資料や文献の検討・講読と報告、ディスカッションを通して理解する。 後半では、日本各地における地域特有の染や織の文化の保存・継承についての取り組みを調査・報告しディスカッションを行う。 これらの演習を通して、文化としての服飾のサステナビリティについて理解を深め、卒業制作・研究のテーマを絞ってゆく。	
	服飾文化造形演習B	2年次までの専門科目「西洋服飾文化史」「日本服飾文化史」「服飾史料研究」「民族衣裳論」「衣の伝統と現代Ⅰ・Ⅱ」等の学修を踏まえ、服飾の歴史・伝統文化を継承していく観点から実物史料とレプリカ資料の在り方とその発展的活用について事例をあげながら理解を深めていく。そしてそこから導き出される歴史的資料の新たな価値とその可能性についてディスカッション・プレゼンテーションを行う。これは歴史・伝統文化の継承に留まるものではなく、新たな服飾創造の可能性に向けられるものでもある。これにより、卒業研究の制作テーマを絞り、制作に向けられた研究方法の検討を行っていく。	
	衣服修復技術	本学衣裳博物館の収蔵品には近世の服飾品も多く含まれ、学内外で展示されるものがある一方で経年劣化による損傷や部分欠損のものも多くある。本授業では、博物館所蔵の西洋・日本の染織品を資料に、補修・修復のための収蔵品の状態を詳細に観察、記録に残していく調査を実施し、必要な補修・修復の検討を行っていく。これは後に繰り返される修復やレプリカ製作に向けての貴重な資料にもなる。また、授業内では補修・修復方法の実際として、表打ち、カバー、サンドイッチ法の実例を実務経験者からの指導で行い、基本知識と技術も学んでいく。本授業を通してオリジナルの保存・修復への理解と今後の歴史文化を継承していくための活用法について学んでいく。	
	卒業研究Ⅰ（制作）	卒業研究は、3年次までの学修を踏まえ、学生が設定した卒業研究テーマに応じて、卒業制作または卒業論文を選択する。 卒業制作では、本学科3年次までに設定されている科目の2つの系統、すなわちヨーロッパ、アジア、日本の服飾文化を歴史的、空間的に捉え服飾文化の継承と発展に資する科目と、服飾文化の観点に立ってファッション産業、衣生活における現代が抱える様々な問題を見出し問題解決に向けて発想力・提案力を高めていく科目で学修した内容から、学生が自ら設定したテーマについて制作を中心とする研究を行う。 卒業研究Ⅰ（前期）では、実地調査や実物調査、文献調査等を進めるとともに、研究テーマにおける問題を提起し、課題解決に向けた提案と実制作の検討を行っていく。	共同
	卒業研究Ⅰ（論文）	卒業研究は、3年次までの学修を踏まえ、学生が設定した卒業研究テーマに応じて、卒業制作または卒業論文を選択する。 卒業論文では、本学科3年次までに設定されている科目の2つの系統、すなわちヨーロッパ、アジア、日本の服飾文化を歴史的、空間的に捉え服飾文化の継承と発展に資する科目と、服飾文化の観点に立ってファッション産業、衣生活における現代が抱える様々な問題を見出し問題解決に向けて発想力・提案力を高めていく科目で学修した内容から、学生が自ら設定したテーマについて論文執筆を中心とする研究を行う。 卒業研究Ⅰ（前期）では、実地調査や実物調査、文献調査等を進めるとともに、研究テーマにおける問題を提起し、課題解決に向けて論理的な思考に基づいた論文構成を整えていく。	共同
	卒業研究Ⅱ（制作）	各々の卒業研究テーマ、すなわちヨーロッパ、アジア、日本の服飾文化を歴史的、空間的に捉え、服飾文化の継承と発展に資する研究テーマや服飾文化の観点に立ってファッション産業、衣生活における現代が抱える様々な問題の解決に向けた研究テーマに関し、「卒業研究Ⅰ（制作）」をふまえて卒業研究を遂行する。 卒業研究Ⅱ（後期）では、実地調査や実物調査、文献調査等を継続しながら、「卒業研究Ⅰ（制作）」で提起した研究テーマにおける問題の解決に向けて実制作を行っていく。実制作にあたっては、制作のプロセス（目的・計画・素材選定・技術・デザイン等）に重点を置き、作品制作とともにそのプロセスについて研究ノートとしてまとめていく。研究成果はプレゼンテーションと展示発表により広く学内外に公開する。	共同
	卒業研究Ⅱ（論文）	各々の卒業研究テーマ、すなわちヨーロッパ、アジア、日本の服飾文化を歴史的、空間的に捉え、服飾文化の継承と発展に資する研究テーマや服飾文化の観点に立ってファッション産業、衣生活における現代が抱える様々な問題を見出し、問題解決に向けられた研究テーマに関し、「卒業研究Ⅰ（論文）」をふまえて卒業研究を遂行する。 卒業研究Ⅱ（後期）では、実地調査や実物調査、文献調査等を継続しながら、「卒業研究Ⅰ（論文）」で提起した研究テーマにおける問題の解決に向けて論文執筆を進めていく。論文執筆にあたっては実証性に基づいた客観的な論考を重視していく。研究成果はプレゼンテーションと展示発表により広く学内外に公開する。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (服飾関係)	選択科目 服飾造形応用	スカートにおける構成や機能を理解し、応用デザインの作品制作をする。スカートについてリサーチを行ない、流行の形や色など、市場動向を知る。 授業前半では基本スカートからの展開方法、製図方法、トワル組み立て、トワル仮縫い、型紙作成、縫製手順を学ぶ。後半は縫製を6週に分けて行い、最終授業で制作したスカートのプレゼンテーションを行う。 以上の過程からスカートのデザインから制作までを通して造形表現の基礎から応用への技術を身に付け、市場調査と実制作を踏まえた上でのプレゼンテーションができるようにする。	共同
	人体工学論	日本のアパレルメーカーにおけるJIS（日本工業規格）を利用したサイズ設定を学び、人体計測において必要な知識を学修する。国際標準のISO 8559が設定している計測項目と杉野服飾大学で使用する計測項目の違いを学び、パターンを引くための基本的な人体計測方法を学修する。人体工学設計技術の科目と関連づけられており、パタンナーの育成を目指す。 アパレル3次元テクノロジーを理解し、3次元におけるランドマークと計測情報を理解することを学修の到達目標とする。そのうえで、2次元のパターンに連動することでより深くパターンを理解することが出来るようになる。	
	現代デザイン論	デザインの時代と呼ばれる現代。技術の進歩と経済的な発展によって、誰でも簡単にある程度のモノを作ることができるようになった現代。 デザインが私たちにもたらすものは何か？そしてデザイナーの役割とは何か？ 本授業では、デザインの源流とも言えるアーツアンドクラフツ運動から世界と日本のデザイン変遷を振り返り、現代デザインの様々な潮流を基礎知識として学ぶ。また、様々な分野の現役で活躍しているデザイナー、プロデューサーをゲストとして招き、授業担当者のデザイン関連のPR企画実務経験と併せ、学生との質疑応答を交えながら現代デザインの課題と未来の展望を考察する。	
	ファッション販売論	全国展開の婦人服小売業チェーンにおける実務経験を活かし、ファッション産業での販売業務の役割と重要性を理解してもらう。教科書と実務経験の融合から販売業務の基礎知識とテクニックを学ぶ。現場感を確認することで販売業務の奥深さと楽しさを感じ取ってもらう。販売業務を通して、社会人として人としていかにあるべきかを学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (44 大極 勝/12回) ファッション業界人として必要なマーケティング販売知識、商品知識 ファッション産業の未来への考察、まとめ (41 岩井 光枝/3回) ファッション販売技術、売り場づくり、販売スタッフの業務	オムニバス方式
	流行論	流行を考える上で基本となる「流行の心理」「製品のライフサイクル（商品寿命）」の概念をまず十分に理解する。その上で、流行がどのように取り入れられ普及していくか、最終的にどのような結末を迎えるかを明らかにし、流行は陳腐化の第一歩という「流行のメカニズム」を考察する。 担当教員の10年以上のアパレル企業での勤務経験を活かし、ファッションビジネスの事例を取り入れながら講義を行うが、ファッション以外の流行商品やトレンド、デジタルネイティブな若者の社会現象にも触れることにより、現代社会における流行を検証していく。特に昨今のデジタル社会のコミュニケーションであるSNS（ソーシャルネットワークサービス）など情報の重要性、そこから購買行動にどのような影響を及ぼすかに注目していく。	
	流通・商業入門	私たちは日々、生活のために様々な「買い物」をしている。必要だと思うもの（商品やサービス）を、買いたいと思う店で、お金を払って買っている。私たちは、商品やサービスに何かしらの「価値がある」と考えるからこそ、お金を払って商品やサービスを買っている。自分たちが作ったもの、売るのが顧客に買ってもらい、また新しいものを作る・売るというビジネスを成り立たせるためには、自分たちが作ったもの、売るのが顧客にとってどのような価値があるのかを常に考えなければならない。 また、例え素晴らしい商品を作ったとしても、誰にも知られていなかったり、どこにも売られていなかったりすれば、顧客に買ってもらうのは難しい。ファッションを仕事にしていく上で欠かせない流通・商業の基本知識を学び、普段自分が買っているものの価値がどこにあるのかを考えるきっかけにする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (服飾関係)	選択科目 ファッション画Ⅱ	<p>服のシルエット、素材、色彩等を意識し、デザインの正確な描写をトレーニングすることで、ファッション画Iで修得した知識と技術を発展させていく。そのためには幅広いファッションジャンルに対して目を向け、自身の好みや世の中の流行を意識することを心がけることが肝要である。</p> <p>本授業では、素材や柄の描写表現、テーラードジャケットの着装、コートに着装、メンズファッション、子供服、sceneに合わせたファッション提案についてファッション画として表現していくことを学ぶ。これにより、生地や素材感を意識した描写、様々なアイテムに対しての着装表現、ハンガーイラストを修得し、第3者に向けて服装のデザイン情報をビジュアルとして伝達できるようになる。</p>	
	経営学入門	<p>「よのなか」のしくみを知っておくと、生きてゆくうえで便利である。「よのなか」は様々な要素から成り立っています。その中でも、「会社」はとびきり重要である。実際、僕らの日々の生活を支えるモノやサービスの多くは、「会社」によって作り出され、提供されている。また、多くの人々が「会社」で働き、給料をもらって生活している。</p> <p>「会社」って何だろうか？「会社」という組織はどのように出来上がっていて、どのように動いているのだろうか？（また、動かしているのだろうか？）これらのことを知っておくと、この「よのなか」で生きてゆくうえでとても役立つ。もちろん、将来「会社」に勤めたい、「これからビジネスをスタートさせたい、自分のショップを持ちたい」、「会社」を作りたいという人にとっては言うまでもない。現在の、そしてこれからの「会社」の姿、「よのなか」の姿をわかりやすく講義していく。</p>	
	画像設計演習	<p>画像設計演習での使用ソフトは、Photoshop、4D-BOX（素材設計）、Power Pointの計3つを使用する。それぞれのソフトの基本操作や特徴を学び、実際に作品を制作しながら技法を習得し、表現力の拡大を図っていく。</p> <p>ファッション業界に限らず、ソフトを操作していく上での基本的技術は必須であり、特にファッション業界ではより専門的な設計技術と優れたプレゼンテーション能力が求められる。</p> <p>本授業では、それぞれのソフトを活用し、連動させながら、デザイン公安やプレゼンテーションが出来る技術を身に付けることを目標とする。</p>	
	ドローイングⅡ	<p>1点ずつ丁寧に「絵」＝「作品」を制作していく。テーマは色彩による空間表現である。闇雲に筆を走らせるのではなく、描画の技法やシステムをテーマに作品を制作しながら、徐々に「自分の世界」をつくっていく。デザイン画やイラストレーションへ向かうだけではなく、発想や構想などのイメージクリエーションのウォーミングアップに展開することを期待する。</p> <p>本授業の目標は、1.「抽象的」なものの方（現象的ではない）を身に付けるきっかけをつくる。2.型にはまらないフリースタイルな発想法を発見する。3.1.2.を導き出すための制作の「方法論」、具体化するための「技法」を身に付ける。4.ディティールの集積によって「世界」をつくりあげる実践力を身に付けることを目指す。の4点である。</p>	
	写真表現演習	<p>写真は誰でも撮ることができるが、思い通りの表現をするにはカメラのコントロールができなければならない。またコンピュータによるフォトタッチの技術は、クリエイターの世界観を具体的にイメージ化することを可能にした。この授業では撮影とフォトタッチの基本技術を、実践的な演習とオリジナル写真集の制作を通して学んでいく。</p> <p>本授業の到達目標としては、①カメラの基本的な仕組みを理解し、目的に合わせてコントロールして撮影できるようになる。②Photoshop、Illustratorの基本的な操作方法とフォトタッチ技術を修得することを目指す。</p>	
	立体造形演習	<p>クリエイティブの現場において、オリジナル性の高い力が要求される。そのためには、立体造形への理解と、オリジナル性高い造形能力を身に付けることが必須である。</p> <p>立体造形力を磨くため、自然物の観察と、自分なりの美しさを考察していく。観察眼を持つことによって、自然物の法則と美の法則が繋がってくる。また、美しさとは何か？を自ら考えていく姿勢が求められる。</p> <p>この授業では、金属彫刻を国内外での作品発表し、環境造形、メディアや店舗/空間デザインなどの業務実績のある担当教員の経験を活かし、実施していく。</p>	
	和服構成論・実習Ⅰ	<p>我が国の民族服である和服（平面構成）の形状を理解し、手縫いで基本的な基礎技術を習得し、実物（大裁ちひとえ長着ゆかた）の制作をすることによって更に技術と知識の向上と和服に対するの感心を深め、次世代へと継承する力を養う。本授業では袖、袖口、身頃、背、脇縫い、肩当て、いしき当てまでを行う。最終授業で浴衣の着装体験をする。</p> <p>和服（きもの）の縫製を学び、進めていく為の総べての手縫いの技法を学び正確に速く縫う技術を習得することが目標である。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (服飾関係)	選択科目 和服構成論・実習Ⅱ	<p>実習Ⅰ（前期）の課程で習得した基礎縫い技法を、実物制作することによって、和服の構成と手縫いの技術等への理解の向上を深める。大裁ちひとえ長着制作後、着装実習と和服・和装に関する基礎知識を学び、日本の伝統衣装である和服についての技術と知っておくべき知識を習得する事が出来る。本授業では、おくみ、衿つけ、袖つけを行い、ゆかたを完成させる。最終授業で各自製作のゆかたを自分自身で着装し帯結びをする。</p> <p>実習Ⅰの成果の上に、大裁ちひとえ長着（ゆかた）の制作達成と共に、和服の構成と和服全般に関する知識を充分理解することが目標である。</p>	
	衣服管理	<p>衣服は着用による汚れを回復させること（洗濯）と製品本来の性能を維持すること（手入れ、保管）を繰り返した後、廃棄あるいはリサイクルされるという一生を送る。本講義では、衣服を管理するために必要な洗浄理論や適切な保管方法を中心に学ぶ。</p> <p>市販の衣料用洗剤の種類や成分表示、衣類に付着している取り扱い絵表示、洗濯機や乾燥機の機能に関心を持ち、衣服に適した洗濯や保管を行うことで、最初の綺麗で美しい状態を保持し、長く大切に衣類を扱える能力を習得する。</p>	
	染色化学	<p>衣服は染色と加工によって、美しさ、快適さが与えられる。染色化学では、アパレル生産において染色加工がどのように行われるか、その方法としくみを学ぶ。また、消費性能としての染色物の堅牢性、染色加工を含むアパレル生産が地球環境や社会に与える影響について考える。さらに工芸染色の技法等についても学ぶ。</p> <p>アパレル生産の流れを知る。染色や加工も含めた衣服づくり、染色堅牢性などの消費科学的な性能、染色加工による環境への影響などを考慮した衣服作りができるようになることを目標とする。</p>	
	繊維ファッション産業構造論	<p>わが国の繊維ファッション産業は、原料・素材から製品、小売りの各段階による分業体制の利点を生かして発展してきた。しかし、現在はその構造が大きく変化、産業の仕組みを再構築する時代に入っている。繊維ファッション産業のグローバル化は急速に進み、国内需要の減少と海外市場の拡大を想定した産業活動に迫られている。この講義では、繊維ファッション産業の過去の発展形態と、SPA（製造小売業）に代表される業態、シェア経済の広がりによる新たなファッション企業の登場など、産業の現状と今後を学習する。担当教員は日本における唯一のファッションビジネス専門紙である繊研新聞の記者歴が長く、その経験をベースに繊維ファッションビジネスを俯瞰して講義するとともに、定量的分析だけでなく、定性評価も盛り込む。</p>	
	映像制作	<p>「ファッションムービー」をテーマに、グループワークによって短時間の映像作品を共同作業のなかで制作していく。～企画、撮影、編集～3つの過程を互いに協力しながらひとつの作品に仕上げていく。映像メディアを～“みてたのしむ”から“つたえる”立場へ～自分のイメージを表現するための有効なツールとして捉え活用していく手がかりを得る。また制作後に学内での上映・発表を予定している。鑑賞者によって“観られる”ことで、はじめて作品が成立することを学んで欲しい。</p>	
	基礎デザイン（平面）	<p>デザインは学習することで習得が可能である。</p> <p>本授業ではトレッキングシューズをデザインする。ただし、トレッキングシューズをデザインすることが目的ではなく、デザインのプロセスの理解とコンセプトの構築法の学習が目的である。</p> <p>デザインの定義はカタチの美しさと思われがちだが、もっと大きな観点から考える「ベースとなる思想」が必要だということを学ぶ。デザインとアートの違いを認識するところから始め、デザインの役割とは何かを美術家兼デザイナーの担当教員の指導のもと、デザインの本質を学んでいく。</p> <p>デザイナーとして必要な経験は、圧倒的な量の蓄積である。プロフェッショナルと素人の違いはここにある。ひとつの課題に対し、ひとつの答えを導き出すための時間と労力を惜しまない情熱を育むことと、圧倒的な量をこなすことを課題とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (服飾関係)	選択科目 基礎デザイン (立体)	<p>金属を用いたアクセサリーをデザインし、制作する。ただし、アクセサリーをデザインすることが目的ではなく、デザインのプロセスの理解とコンセプトの構築法の学習が目的である。</p> <p>デザインの定義はカタチの美しさと思われがちだが、もっと大きな観点から考える「ベースとなる思想」が必要だということを学ぶ。美術家兼デザイナーの担当教員の指導のもと、デザインとアートの違いを認識するところから始め、デザインの役割とは何かをデザインプロセスに沿った授業の中で体験し学んでいく。</p> <p>デザイナーとして必要な経験は、圧倒的な量の蓄積である。ひとつの成功の裏には膨大な量のトライ&エラーが必要だ。プロフェッショナルと素人の違いはここにある。ひとつの課題に対し、ひとつの答えを導き出すための時間と労力を惜しまない情熱を育むことと、圧倒的な量をこなすことを課題とする。</p>	
	ファッション販売論上級	<p>授業担当者の接客販売実務経験を活かし、ファッションビジネスにおける販売技術の役割の確認と販売テクニックを学び、接客ホスピタリティリサーチなどで消費者目線を体験しファッション販売の厳しさや楽しさを学ぶ。</p> <p>ファッション販売能力検定試験2級を学び、現代のファッションビジネスに対応出来るスキルを身につけ、プロのファッションアドバイザーとなる接客販売の基本から応用を習得する事を目指す。</p> <p>販売について学ぶことにより、ファッション業界の仕組みと小売店舗での実際の関係が理解できるようになる。</p>	
	色彩実践学	<p>ファッションコンテンツにおいて重要な「色」を多角的に学ぶ。具体的な授業内容として、①色彩学として色を捉える、②トレンドとの接点を理解する、この2点を中心に、講義・演習により実践で活用できる知識や技能を学んでいく。必要に応じて検定のポイント学習も行なっていく。</p> <p>本授業を受講することにより、色彩の基本的な知識、色の持つファッション上の役割や機能を理解・習得する事が出来るようになる。</p> <p>配色技法の学習では、演習手法も取り入れ、自分で考えながら配色を行うことで、実践に活かせる知識や技能が身につく。</p>	
	色材演習	<p>素材の色彩と材質感についての観察、発見、収集、分類、検証、構成を行う。具体的には布素材のみならず、ひろく身の回りの「モノ・コト」に眼を向けたフィールドワークから「オリジナルな色と質の資料」を制作し、平面、立体デザインへと応用する。そして将来「素材からのデザインの提案～展開」が出来る視点や可能性を準備する。</p> <p>造形を行う際の素材の選択や、その特徴を生かした表現方法など色彩と質の構造について理解し、今後の服飾造形表現に応用する素材活用ができるようになる力を養う。</p>	
	服飾手芸 (ニットを含む)	<p>編物の代表的な三つの技法 かぎ針編み、棒針編み、アフガン編みについて、基礎的な技法を習得する。</p> <p>授業内容と流れとして、それぞれの技法に合わせた、作品を作る為に必要な増減法、とじ、はぎ、素材の特徴に合った組み合わせや編み方を学び、作品作りに活かせるように学んでいく。</p> <p>具体的な授業内容として、かぎ針編み、棒針編み、アフガン編みの基礎技法を学び、理解する。編目記号図 (JIS記号) を理解する。かぎ針編みでは、モチーフを編む。棒針編みでは、身に着ける作品の制作を進めながら、制作に必要な知識を得る。</p>	
	服飾クラフト	<p>手芸 (Hand Craft) は、世界各地で古い昔から行われその土地の生活様式に合った特有の色や模様が作り出されて来た。</p> <p>本授業では様々な刺しゅうの知識を深め、基礎となる刺繍の材料 (布・糸・針など) の扱い方や技法を学んでいく。</p> <p>様々な刺しゅうを学び基本的な技法が習得出来る。刺しゅう小物を制作して生活の中にデザインを取り入れられるようにすることを目標とする。また、図案を構成し刺しゅう技法を組み合わせる応用力をつけることも目指す。</p>	
	服飾デザイン概論	<p>「デザイン」は、単に「もの」(服飾)のイメージに合わせて色や形にしていることではなく、最も重要な目的の一つとして、「もの」を通して人と社会をコーディネートしていくことがあげられる。そのためには時代を知り、人と社会に関心を持つ姿勢が求められ、どのようなプロセスを通して最終的な素材や色や形にしていかが問われていく。</p> <p>本授業では、服飾デザインを多角的な視点から捉え、自らの服飾デザイン観が社会とどのように結びついていくのか、理論的・実践的思考を高めてプレゼンテーション、ディスカッションを行い、自らのファッション観を形成していくことを目指す。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (服飾関係)	選択科目 デザインプロセス	本授業では、架空のブランドを立ち上げ、ロゴマークのデザインをし、金属でエンブレムを制作していく。 デザインは学習することで習得が可能である。デザインの定義はカタチの美しさと思われがちだが、もっと大きな観点から考える「ベースとなる思想」が必要だということを学ぶ。美術家兼デザイナーの担当教員のもと、アートとデザインの違いを認識するところから始め、デザインの役割や、デザインのプロセス、コミュニケーション力をディスカッションしながら学んでいく。	
	消費者行動論 I	消費者および生活者の行動を捉える際の視点と手法を紹介し、身の回りにある商品やサービスについて、実際にそれらを適用して分析するミニワークを実施する。 本授業では、① マーケティングの概念と、マーケティングにおける消費者行動の重要性を理解している。② 世の中にある商品・サービスについて、マーケティング戦略・施策の視点で分析できるようになる。以上の3点を目指していく。 本授業は、ファッションビジネスを理解し、応用する倫理の基礎的向上に資する科目である。	
	グローバルマネジメント特論 I	社会潮流をベースとした、グローバル時代におけるファッションビジネスの課題を様々な観点から捉え、今後のファッション産業に求められる企業経営の方向性を探っていく。商品のみならず、その経営理念、組織形態やリーダーシップ等、ブランドエクイティとしての成立を、事例により研究。授業担当者の現場における実務経験や、業界リサーチャーの視点等から、時代性に根差した学習を目指す。21世紀における、グローバル市場への考え方や、その戦略に関して、入門的理解を深めていく。	
	インターンシップ	ファッションの世界に興味・関心を持って入学した受講生にとって、卒業後の仕事について確認し、今後の授業の取り組みを見据えるためにも大切な体験になる科目である。 本科目では、インターンシップ(就労体験)を通して、専門分野に関連する実務体験を企業で体験・学修する。それにより実務能力を高め、企業で必要とされる能力を感じ取ることで、卒業後の就職に対する意欲と学内での学修をより深く理解することができる。 学内授業では得られない就労体験を行うことで将来の就職に生かせる理解と能力を身に着けることを目標とする。	
	長期インターンシップ	ファッションの世界に興味・関心を持って入学した受講生にとって、卒業後の仕事について確認し、今後の授業の取り組みを見据えるためにも大切な体験になる科目である。 本科目では、長期のインターンシップ(就労体験)を通して、専門分野に関連する実務体験を企業で体験・学修する。それにより実務能力を高め、企業で必要とされる能力を感じ取ることで、卒業後の就職に対する意欲と学内での学修をより深く理解することができる。特に4週間相当の期間においては、実際の仕事内容に加え、仕事の流れあるいは組織としての動きなども学ぶことができる機会となる。 学内授業では得られない就労体験を行うことで将来の就職に生かせる理解と能力を身に着けることを目標とする。	
	ショップディスプレイ	講師の実際の仕事例を紹介しながら、ショップディスプレイ/デザイン/マーケティングの考え方を学んでゆく。 ショップディスプレイとは、企業戦略を視覚化する仕事である。そのため、経営陣とも対等に話ができる基礎知識を身につける。 授業の前半では、世界のVMD実例を学び、後半では「ショップをつくってみよう」としてプランニング実習を行う。授業最終にはレポート作成・発表をし、それについての講評・ディスカッションを行う。 空間演出の基礎力とビジネスの基礎知識の向上に資する科目である。	
	メディアコミュニケーション論	本講義を通じて、社会におけるメディアの果たす重要性を理解し、基本的なメディア・リテラシーやビジネスに必要なメディアコミュニケーションについて習得をする。次にオールドメディアからニューメディアまで多岐にわたるメディアを これからの社会に必要なスキルとして「実践的・実学的」に捉え、いかにビジネスにおいて、メディアが社会に情報伝達を通して時代を作り上げてきたかを検証、講義を進める。 すなわち、あらゆるメディアを用いるコミュニケーションを「メディアコミュニケーション」とし、情報化社会の現状に即した必要とされるリテラシーを習得、それを実社会において活用できるノウハウ、とりわけファッションやデザインの分野で重要なコミュニケーションにかかわるさまざまな分野で実践できる知識の習得を目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (服飾関係)	選択科目 ファッション画 (CG)	Illustrator/Photoshopを使用したコンピューターによる演習を行う。 アイデアを図形や画像を使用して形にできる様に、柔軟な発想力を学ぶ。テキストスタイルを意識した素材制作やハンガーイラストの制作、スタイル画への着色方法、ファッションデザインの種類コンテストにも積極的に参加していく。 Illustrator/Photoshopの基本操作を身に付け、ソフトの特徴を活かした作品が制作できるようになれば、自身のファッション表現の可能性を広げることができ、ツールとしての実用性が高められていく。	
	アパレル産業論特講	情報の洪水状況の中で自分に合ったメディアを選択することを訓練する。NIE方式(備考参照)を採用して、日々の変化を日刊専門紙の織研新聞で読み、聞き、語り、自分の物にしていく(スクラップ)。「ファッションの仕事」といった漠然とした概念を「実態」として捉えていく。織研新聞に掲載される産業動向や市場動向などの実データを分析することで現実のビジネスの問題解決につながる思考方法を習得していく。ファッション産業の「昨日」「今日」「明日」を読み解き、自分の興味の領域を具体化することで就職活動も視野に入れる。担当教員は織研新聞で記者及びマネージメント職を経験しており、産業に密着した専門紙の活動を通して得た経験、とりわけ定量分析とともにファッションビジネスの定性評価も盛り込んだ講座とする。	
	染織史	染織品は、古代以来人間の生活とともにあり、各時代における政治・社会・文化など多様な側面と密接な関係を持ち、それらに敏感に反応、変化し、継承されて現在に至っている。この講義では、高校までの歴史の授業では直接的に触れることの少ない日本服飾史との連動を念頭に置く。そして、服飾製作の上で重要な染織品について、その歴史的背景を、装束の着装体験や歴史資料としての染織品に直接触れる機会や、学芸員資格取得の上でも重要な博物館・美術館の展示見学を通じて学んでいく。	
	ファッション・レベソテーション演習	ファッションに関して、ここでは、生活文化全般についてのコンセプト、トレンドやスタイルを幅広く扱う。授業担当者の約30年に渡る現代美術、デザインに関わる展覧会等の実務経験を踏まえて、美術館、博物館をはじめギャラリーや多様な展示施設での多ジャンルの展覧会、教育プログラムを中心に、創造の基礎を実践的に提示する。時代に求められる新しい生活様式を考え、創造に活かす視点を学ぶ。そして、各自がその発展の段階において、より豊かで説得力のある自己表現としてのファッションを探求し、専門性を磨くとともに自律した姿勢を身に付けていく。	
	ドレーピング&パターンメイキング(選)	パターンメーカーの実務経験談を織り交ぜた講義実習を行う。 基本理論と基本技術の復習と、立体と平面とを兼ね合わせ、立体的な服の見方を学び応用へと発展させ、原型をつくれるようになる。またその先にあるパターンメイキングができるようになる。 具体的な授業内容としては、原型のドレーピング&パターン作成から始まり、スカートのドレーピング、立体的な袖、ダーツの考え方、襟のドレーピングとパターンメイキングと内容を発展させながら学んでいく。 ファッション業界で活躍できる専門力向上に資する科目である。	
	近代日本モード史	明治・大正・昭和初期は、西洋文化の影響を受けて日本の政治・経済・社会構造などの近代化が進められた時代である。服飾をはじめとする生活文化についても、現代の生活に直接結びつくような諸相が見られるようになる。ただし、多くの日本人がすぐに洋服を着用するようになったのではなく、洋服は少しずつ段階を踏んで浸透していった。男性の公的な装いに洋服が採用される一方で、多くの人びとはまず、従来の和装に西洋風を取り入れるという形で、自然な和洋折衷形式を作り上げていった。大正時代後期以降は積極的に洋装となる女性も現われ、ドレスメーカー女学院をはじめとする洋裁学校が相次いで創設される。戦後、これらの洋裁学校は洋裁ブームを牽引し、洋服の普及に大きな役割を果たすことになる。 この授業では、このような近代日本の服飾文化について洋装と和装の両面から取り上げ、背景にある社会や文化の状況とともに解説していく。	
	リテールビジネスにおけるVMDマネジメント	VMDをリテールビジネスにおけるマネジメントとブランディングの一領域と捉え、構成要素としての各分野を担当講師自身の27年の百貨店実務経験に基づく実学も含め、体系的かつ実践事例に触れながら学んでいく。 半期通して受講することで、VMDの本質から陳列技法・ストアプラン・装飾演出・組織運営管理まで俯瞰して捉えることが可能となり、様々な切口からリテールビジネス・ファッションビジネスの実務に活かすことができるようになる。 店舗視察での評価分析やレポートが作成できるレベルで、VMDの意味と目的、個別手法の体系的な理解をし、演習の過程や成果物作成に取り組むことで、あらゆる局面で解決策としてのVMD施策を提示出来るレベルを目標とする。将来ビジネスで実践し、かつ自身の経験を踏まえ伝承できるレベルで、VMDマネジメントという考え方の習得を目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (服飾関係)	コミュニケーション論	この授業では、学問としてのコミュニケーション論を学びながら、実社会に出たときにどう活用するか、毎回クラスの中で相互に実験的に関わり試みをする。また日常生活でも試みる。価値観が違う、異文化、年代が違う、という人との関係を円滑にするために、コミュニケーションスキルを知識として学ぶだけでなく、どのような心構えが必要か、コーチング、チームワークゲームやワールドカフェ方式のディスカッションを交えて身に付けていく。 自身の特徴を把握でき、自己承認できるようになること。そのうえで自分の考えや気持ちを明確に表現できる話す力と、相手の真意をくみ取れる聴く力と共感力を習得し、社会で通用するコミュニケーション能力を高めていくことを目指す。	
	現代流通論	ファッションビジネスをめぐるイノベーションの多くが流通分野から起きている。この科目では流通の最前線で活躍する職業人や研究者をゲスト講師に招き、オムニバス方式で開講する。対象とするのは、アパレル企業、SPA企業を輩出したグローバルブランド企業、日本特有の発展を遂げたセレクトショップ、商業集積としてのSC、そしてファッションテックを主導するネット企業などの担当者。担当教員は日本で唯一の日刊ファッションビジネス専門紙である織研新聞の記者歴が長く、その経験と人脈を活かして講義にふさわしい講師を選定する。	
専門科目 (ライフスタイル関係)	家庭経営学 (家族関係学及び家庭経済学を含む)	社会生活の基本単位としての家庭を経営する視点から、家族や家庭を巡る諸現象の考察を通して、より良い生活設計のあり方を探る。授業形態は講義・演習を基本とするが、授業の展開は学生が主体的に取り組めるようにし、今後、教職の学習指導に活かすことができるとともに、学生自身の生活にいかすことを目指す。 本授業受講によって、今日の生活スタイルの特徴を理解し、①家族関係・家族心理について、②衣食住の運営について、③家庭経済について、④家庭管理についてなどの視点から家庭経営について系統的に考え理解できるようになる。	
	家庭電気・機械	社会生活や家庭生活で必要となる「エネルギー変換に関する技術」の基礎について学ぶ。生活におけるエネルギーの利用について学んだ上で、日常生活で利用することが多い家庭電気機器等について取り上げ、その仕組みを知り、安全な使用方法と故障等のトラブルに対する対処方法について考える。中学校技術・家庭科での関係する指導の実際についても紹介する。 本授業によって、生活におけるエネルギー変換の技術について関心をもつようになり、家庭生活で利用する電気機器等の仕組みの概要を理解し、安全に利用できるとともに、正しく動作しない時に、その原因について考えることができるようになる。エネルギー変換と利用の技術についての基本を理解できることを目指す。	
	食物学（実践栄養学）	栄養素の種類と体内での働きや食生活が関係する生活習慣病など栄養学の基礎を学ぶ。様々な健康・ダイエット情報に惑わされることなく、毎日の食生活やライフステージごとに活用できる正しい知識を身につける。また食物摂取頻度調査、食事記録をつけることにより、自分の栄養摂取状態・食生活・健康状態を見直し、具体的な改善方法を検討する。 食物摂取頻度調査の結果や食事記録から自分の心と体が食生活と密接につながっていることを理解する。その上で、栄養素の特徴やバランス良い食生活とは何か分かり、実際の食生活で実践できる。ライフステージごとの食生活上の注意点がわかることを目指す。	
	家庭情報処理	生活や産業における情報の意義や役割を理解し、情報処理に関する技術高めるとともに、中学校・高等学校の家庭科教員として必要な情報や情報手段を主体的に活用する能力と態度を身に付けることをねらいとする。また、中学校における情報処理に関する指導の実際について知り、高等学校家庭科における関連科目の指導の方法について考えていく。 本授業によって、生活や産業における情報に関する技術について関心を持つようになり、教員として必要な情報活用能力の基礎が身につく、問題解決にコンピュータを活用しようとするようになる。以上より本授業では情報に関する基本的技術について理解できることを目指していく。	
	食物学（食品学）	様々な食品についてその特徴や栄養成分、保存方法、鮮度の見極め方、調理法などについて解説する。また食品表示法など食に関連する法律や食品衛生、食に関する諸問題（食料自給率や食品ロス、遺伝子組み換え食品など）についても解説する。現代の食に関する諸問題を知ること、食や健康、安全に関する情報を読み解く基礎的な力を養い、実際の食生活をより良いものにしていくことを目指す。 ①それぞれの食品の特徴を理解し、目的に合わせた適切な選択ができる。②食品表示法、食品衛生の知識をもとに適切な食品の選択をし、安全な食品の取り扱いや保存、調理ができる。③様々な情報に惑わされることなく、情報を冷静に分析し、日常生活で応用できるようになることを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (ライフスタイル関係)	選択科目 住居学 (製図を含む)	住居学に関する基礎的知識の習得を目指し、まず、住居の役割や機能に説明する。次に、住居の歴史の変遷について概説し、間取り・生活の変化や室内環境について学習する。後半には、住まいの安全や住まいの計画 (製図を含む) について学習し、健康・快適・安全な住まいについてまとめる。 人間生活の器である住居の役割を理解し、住生活に関して居住者として必要な基礎的知識を身につける。住居の役割と機能、住居の歴史の変遷と生活の変化、室内の環境整備の必要性や維持管理方法について理解する。	
	保育学 (実習及び家庭看護を含む)	保育学の受講にあたっては、子どもの発達や子どもの他者へのかかわりを理解すること、また知識だけでなく、自らが活動を体験することにより子ども理解を一層深めることを心がけてほしい。 本授業受講によって、乳幼児期の発達を理解できるようになり、乳幼児期の子どもたちが、出会う身近な存在 (親・保育者・友だち) とのかかわりを知ることができるようになる。また授業内での教材研究を通して子ども理解を深めることができるようになることを到達目標とする。 本授業は社会基礎力の向上に資する科目としても位置付けられる。	
	食文化論	日本の特色ある食文化を、地理、気候、歴史、文化、社会的側面から解説する。さらに食べる機会が多い中国・フランス料理等の食文化、宗教と食の禁忌についてもとりあげ、互いの食文化にどのように影響を与えてきたかを学ぶ。また社会人として知っておくべき食事マナーについても解説する。 本授業を履修することによって、①日本の食文化の特徴、他国の食文化の特徴について理解し、説明できる。②食文化に対して自分の考えを述べることができる。③各国の料理や日常の食事において、マナーを守ることができるようになることを目指す。	
	食物学 (調理実習・実験) I	この授業は、単に料理を作って食べるだけの授業ではない。確かな調理技術・理論の定着のために調理を科学的側面からも捉えられるようになることを目指す。前期は調理法別にその特徴を学び、各調理法を使用した代表的な料理を実習する。また、家庭科教員として安全で科学的な調理実習が運営できる力を身につけることを目指す。 ①様々な食品を知り、食品を選択するポイント (鮮度や旬、栄養価など) と基本的な調理技術を身につける。②美味しさを決めるポイントを理解し、安全かつ環境に配慮した調理、片づけができる。③食事マナーや盛付、歴史など食の文化的な側面を理解し、説明・実践することができる。④グループによる調理実習や実験を通して仲間とのコミュニケーション能力、協調性、責任感を養う。	
	食物学 (調理実習・実験) II	前期開講の調理実習・実験 I の内容を発展させた内容である。半期で調理技術が格段に向上するため、実習のレベルについていけるよう、この授業からの履修ではなく調理実習・実験 I を履修してほしい。前期に学んだ基本的な調理技術と知識を応用して、和・洋・中華献立や和・洋菓子、行事食に挑戦する。また教職課程履修者は教育実習で調理実習を担当する場合もあることを念頭に、調理指導に必要なスキルを実践的に学ぶ必要がある。そのため学生が教員役となり切り方など簡単な示範を行うことで、必要な能力や態度を養う。 本授業履修によって、①前期に身に付けた調理技術・知識をさらに高める。②身に付けた調理技術、知識をもとに条件に合った調理の計画・実施ができる。③家庭科教員として調理実習を運営するための基礎的な力を身に付けることを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目 (必修科目)	初年次 学習基礎	<p>大学新入生を対象とした「初年次教育科目」として設定されている。杉野服飾大学での学びに適応し、長期的・短期的将来像を見据えた学びの目的や意識を明確に持つことができるよう、様々な角度から講義を展開していく。さらに、大学における、基礎的なアカデミックスキル(受講技術、学問的・知的活動の技術)、ソーシャルスキル(社会人としての健全な生活習慣を身に付ける技術)、スチューデントスキル(大学生活を円滑に進める技術)を修得していくことを目指す。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(14 水野 真由美/4回) オリエンテーション(スチューデントスキル) 就職意識の芽生え、検定情報他資格取得の目指し方(ソーシャルスキル) 学習の振り返りとまとめ (8 北折 貴子/1回) 建学の精神と履修系統図と履修モデルの提示(アカデミックスキルとスチューデントスキル) (23 手島 陽介/1回) 有意義な学生生活を送るためのキャンパスマナー等と対人関係とメンタルケア(ソーシャルスキルとスチューデントスキル) (18 水上 雅子/1回) 有意義な学生生活を送るための基礎体力と生活リズムについて(ソーシャルスキルとスチューデントスキル) (27 山田 奈緒子/1回) 有意義な学生生活を送るための食生活と健康(ソーシャルスキルとスチューデントスキル) (15 桐山 征士/1回) デザインとは何か(アカデミックスキル) (11 千代崎 寛/1回) 研究者倫理関係(アカデミックスキル) (2 鈴木 桜子/1回) 専門書・参考文献の探し方、学外機関の利用の仕方(アカデミックスキル) (16 伊藤 高広/2回) 博物館・美術館の利用、活動について知る、発信している情報を活用する(アカデミックスキル) 社会人としての言語活動(アカデミックスキルとソーシャルスキル) (17 五月女 由紀子/1回) 情報リテラシー(ソーシャルスキル) (22 北澤 茉奈/1回) グローバル社会と言語(アカデミックスキル)</p>	オムニバス方式
	キャリア	<p>文章表現</p> <p>自分の判断や意見、発想などを相手に伝えるためには、わかりやすい文章を書かなければならない。ワークシートや文章作成などで、そのための練習をしていく。2年次以降の、レポート・論文執筆のための基礎的訓練でもある。また、さまざまな文章を読み、そこから正しい情報を読み取る練習もしていく。 本授業履修によって、文章表現の基礎を身につけ、自分の考えを相手にうまく伝えることができるようになり、様々なメディアの情報を読み解き、判断できる能力を養う。また、社会人としての資質・能力を養っていくことを目指す。</p>	
	情報演習Ⅰ (学修ポートフォリオを含む)	<p>本授業では、まずコンピューターの操作に慣れ、基本的な用語を理解した上で、manabaやactivemailの使い方を学ぶ。続いて、様々なシーンにおいて使用することが想定されるofficeソフト(WORD、EXCEL、POWERPOINT)を目的に応じて使いこなす基礎力を身に付けていく。数値データや文章等を見やすくまとめるという課題に個人で取り組むだけでなく、ピア・ラーニングを行う事により基礎力を定着させる。また、デジタル・ネットワーク社会において守るべきルールを理解し、安全に情報を活用していくことを学ぶ。</p>	演習20時間 講義10時間
情報演習Ⅱ (学修ポートフォリオを含む)	<p>本授業は、2年次以降にPhotoshop、Illustratorを使用した授業を履修する上でのスキルを身につける授業である。これらアプリケーションの基礎的なスキルを習得する事に重点を置き、練習と課題制作をおこなう。個別に課題に取り組むだけでなく、プレゼンテーションを通して他者の作品に触れ、様々な視点や感性と触れ合い、そこからさらに自分自身の作品と客観的に向き合い改善していく力を養うための練習を行う。試行錯誤しながら自由に作品制作に取り組む雰囲気大切に、確実なスキル向上を目指す。</p>	演習20時間 講義10時間	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養科目 (必修科目)	キャリア	キャリアプランニング	激しいスピードで変貌する現代は、終身雇用と年功序列に守られた過去の職業観がまったく通用しない時代である。ダイバーシティや女性の社会進出など、これまでの職業意識を大きく変えることがいまや当たり前になっており、仕事に対するスタンスを早くから身につけることが求められている。「キャリア」の言葉が日本で使われ始めたのは1970年代だが、当時の概念と現在ではその意味、方向とも変化しているといえよう。自分のキャリアを自ら切り開いて行く能力を身に付け、社会参画意識を高めていくことが学生においても必要なのだ。この講座では、自己発見を促し、現代に働くということを理解させる講義と、企業研究など社会人としての適応能力を学ぶ。講義中盤からは、現在企業で働いているベテランや若い先輩のビジネスライフの活動実態を紹介し、職業的世界の現実理解を深める。	
教養科目 (選択科目)	一般	社会人基礎A	<p>授業担当者の企業での人材育成における実務経験を活かし、多様化の進む社会の中で、自身の強みを生かし活躍するために必要な力を身につけるため、講義のみならず、ワークショップ、ディスカッションを多く取り入れた参加型の授業を行う。</p> <p>社会で必要な他者を受け入れる力、自分の考えを伝える力、協力してイノベーションを起こす力を、言語的、数学的、論理的等、様々なアプローチにより講義し、さらに体現することで理解を深める。</p> <p>職場や社会で多様な人々と関わっていくために必要な基礎的能力(コミュニケーション力、言語的能力、数学的思考力、論理的思考力)を理解し、修得することを目指す。</p>	
		社会人基礎B	<p>SPI3を通じて問われる社会人としての基礎的な言語能力、非言語能力の問題に取り組み、自身の課題を明確にする。さらに性格適性を考え、自己の強みを生かす表現方法を、知識としてだけではなく体得できるよう、スピーチ、ディスカッション、ワークショップを多く取り入れる。</p> <p>社会人として必要な基礎的能力(言語能力、非言語能力)と共に、スピーチ力、ディスカッション力、ディベート力等、自己表現力を修得することを目指す。</p>	
		心理学A	<p>心理学は、人の行動や心を科学的に研究する学問である。本講義では、基礎心理学の分野を中心に、心理学の全体がつかめるよう幅広い領域の理論について、概説する。「心」とは何か、「心理学」とはどのような学問か、グループ学習やディスカッションなど体験的な学習を通して、自ら学び、深めていくことを目指していく。また、服飾業界やビジネス場面において心理学知見がどのように活用されているかにも触れていく。</p> <p>心理学の領域における概念を理解し知識を身につけるとともに、心理学的な見方ができるようになることが到達目標である。</p>	
		心理学B	<p>本講義では、「心理学A」の授業内容をもとに、基礎心理学から応用心理学への展開を概説する。グループ学習やディスカッションを通して体験的に学び、心理学的な知見がどのように社会場面に活かされているのかを学習していく。心理学に親しみながら、知識を身につけるとともに、自己理解、他者理解を深めていく。</p> <p>本講義を通し、論理的な思考力を養い、さまざまな見方や柔軟な行動ができるようになることを目指していく。また、学習したことを、日常生活や社会場面の中で具体的に活用できるようになることが到達目標である。</p>	
		文学	<p>本講義では、日本文学の中の「神話・伝説」を中心に取り上げる。日本文化の多様性にふれ、日本人が自分たちと自分たちを取り巻く世界をどのように認識してきたのかを考えていく。また、単にノートをとるだけでなく、積極的にノートを作成していくことで、多様な情報を自分なりに整理する訓練とする。</p> <p>文学を通して広く日本の精神や文化にふれ、多様な視点を持つことができるようになること、そして、日本の文化・伝統を踏まえた表現をする場合の思想的基盤を身につけることを目標とする。</p>	
	日本美術史	<p>本講義は日本美術史の入門科目である。日本の歴史の流れに沿って日本美術の代表的作品を概観し、個々の作品の造形特質や魅力を探るとともに、作品を生み出した社会的背景なども考究する。</p> <p>日本美術の代表的作品を多面的に考察し、日本美術に関する基礎的知識を身につけ、各時代の特色を理解して、日本美術の歴史的展開に対する概括的な理解に到達することを目指す。更に、そこに一貫する日本美術の本質や、日本人の美意識の問題を考究する手がかりを得ることを目標とする。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養科目 (選択科目)	一般	西洋美術史	西洋美術史の代表的な諸作例を時代に沿って概観し、言葉によらない—主に視覚的な—表現としての美術がもつ意義の歴史的な変遷を辿る。毎回スライド (Power Point, 時にビデオやDVD) の画像を使用して、時代や様式の特徴、美術表現の見方について学んでいく。個々の作例の特質を、主題や時代・地域的背景、デザイン、材料・技法その他の側面から立体的に捉えて解説し、また毎回の内容に関して各自考察して互いに見解を述べ合いながら、美術表現がもっている様々な力を探求する。授業に関連する作品を実際に鑑賞する貴重な機会として美術館見学も行う。	
		憲法	この科目では、憲法に関する議論について学ぶことを主としつつも、総体として法学の入門として機能するような工夫を施しながら授業を進めていく。近年耳目を集めるトピックであって憲法学と関連し得るもの(たとえば、ヘイトスピーチ、PTAに関する賛否、「ブラック企業」における就労など)はもとより、授業の計画に掲げるような様々な単元について、参考文献や具体的な判例・裁判例などを通じて理解を深め、関連する条文の内容及び解釈についての知識を身に付けつつ、法的な思考を養う。	
		社会福祉学A	本授業では社会福祉の定義および意義とイギリス、アメリカ、日本における社会福祉の歴史をふまえた上で、わが国の社会福祉の組織(法制、機関、施設、従事者、経費)と社会保障制度(公的扶助、社会保険)の概要および現在の動向とその問題状況について概説する。社会人としてさまざまな分野で活躍するために身につけるべき社会福祉に関する基本的知識の修得、および自らの社会福祉観の形成を到達目標とする。	
		社会福祉学B	社会福祉学Aの授業内容を基に、社会福祉援助技術(ソーシャルワーク、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク)や社会福祉の対象(貧困、高齢者、子ども、女性、地域、障害)について概説し、さらに今日におけるそれらの動向や問題点を詳説する。社会人としてさまざまな分野で活躍するために身につけるべき社会福祉に関する基本的知識の修得、および自らの社会福祉観の形成を到達目標とする。	
		化学A	本講義では、化学について身近な皮膚や化粧品を主体に学んでいく。化学は常に生活と共にあり、それを正しく知り、興味を持って利用することは、豊かな生活の助けとなる。加えて、身近な化学を学びながら、物事を科学的な視点で知り、俯瞰し、考える能力を養う。授業担当者の消費財メーカーでの研究開発・事業運営の実体験を活かし、グローバルな観点を含みながら講義を進めていく。 皮膚の成り立ちや構造、機能を習得し、化粧品や生活習慣、その他内外的因子の影響と日常の皮膚トラブル発生との関連性を考え、学修し、皮膚を健やかに、そして、美しく保つ方法を習得する。授業では皮膚やその付属器官の役割、構造、そして皮膚のトラブル、アトピー性皮膚炎などを取り上げて知識や理解を深めていく。	
		化学B	化学を身近な皮膚や化粧品を主体に学びます。化学は常に生活と共にあり、それを正しく知り、興味を持って利用することは、豊かな生活の助けとなります。加えて、身近な化学を学びながら、物事を科学的な視点で知り、俯瞰し、考える能力を養います。授業担当者の消費財メーカーでの研究開発・事業運営の実体験を活かし、グローバルな観点を含みながら講義します。加えて、外部専門家による最新の情報を基にした特別実習や講義も予定しています。 授業では皮膚、そして毛髪についても学び、皮膚や毛髪の成り立ちや構造、機能を習得し、化粧品や生活習慣、その他内外的因子の影響と皮膚や毛髪のトラブル発生との関連性を考え、学修し、皮膚や毛髪を健やかに、そして、美しく保つ方法を習得する。外部の専門家を招いて特別講義や特別実習も行い、化粧品市場や法規制などについても理解を深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目 (選択科目)	体育A	私達は自由から動かすことができる。しかし、他者との同一の動きを行うことは不可能である。 本学の体育とは、身体活動の実践を通して、他者の身体活動を観察することによって自分の動きとの違いを理解し、自分自身の身体の動きを正確に知ることや、こころの有り様を知ることである。そして、他者との違いを、いかに自分の中に取り入れ融合させるかを学習する“からだの教育”である。これらのことをコーディネーショントレーニングとチームスポーツから学習していく。 このような“からだの教育”から生涯において健康で豊かな生活を維持できるよう身体活動を生活化し、環境状況に適応していける能力が培われる。	
	体育B	スポーツも日常の生活も全て身体活動である。しかし、現在の私たちは“からだ”に対して興味が無く、自分の“からだ”なのに借り物のようである。“からだ”を意識し、どう付き合うのかを学習することは大切である。なぜなら、自分の“からだ”こそ個性であり、身体活動こそ自己を表現する基本だと思ふからである。一流のスポーツ選手のパフォーマンスに感動を覚えたことはないだろうか。他人の何気ない振る舞いに美しさを感じたことはないだろうか。自分の身体活動にも、自然な美しさや自分らしさが表現できたら楽しいと思うであろう。本授業では、個人種目とチームの課題(ダブルタッチ)で技術向上を目指し学習する。また、障がい者スポーツ、ニュースポーツを経験し、スポーツでの共生を学習する。	
国際関係	言語と服飾文化	服飾文化に関する題材を英語で読むことにより、その知識を深めるとともに、英文読解と、英文作成の練習をおこなう。具体的には、1940～1950年代のバリ・オートクチュール (Christian DiorとCristobal Balenciaga) についてのアカデミックな英文(解説文)を扱い、語学としての英語と、服飾文化の両方にフォーカスする。授業は、講義と学生による発表の形式ですすめていく。 1. 服飾に関する用語の語彙を増やすこと、2. 英語の構文をとらえて英文が読めること、3. スタイルを説明する簡単な英文が書けること、4. 1940～1950年代のバリ・オートクチュール(特に、ディオールとバレンシアガ)についての知識を増やすことの4点が到達目標である。	共同
	日本文化・日本事情 I	本学留学生が、日本の習慣と文化に慣れ、日本の社会を理解するための授業である。日本人とコミュニケーションをとるために必要な、日本の生活・習慣を紹介する。教材として新聞や雑誌などを用いて、現在の日本の情報を読み解いていく。日本語検定対策の一助とする。 1. 日本の感性・考え方を理解することができるようになる、2. 生活の中で日本の文化に親しむ、3. 日本の衣食住に関わる語彙を知る、4. 日本の伝統文化に親しむ、5. 現代日本文化を知ることの5点が到達目標であり、社会・文化の相互理解に資する科目である。	
	日本文化・日本事情 II	本学留学生が、日本の習慣と文化に慣れ、日本の社会を理解するための授業である。日本文化・日本事情 I に引き続き、教材として新聞や雑誌などを用いて、現在の日本の情報を読み解く。 1. 日本の感性・考え方を理解することができるようになる、2. 生活の中で日本の文化に親しむ、3. 日本の衣食住に関わる語彙を知る、4. 日本の伝統文化に親しむ、5. 現代日本文化を知ることの5点が到達目標であり、社会・文化の相互理解に資する科目である。	
	英語(総合)A	本授業では、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの4つのスキルを伸ばしていくことを目的とする。BBCドキュメンタリーの教科書では基礎的文法を復習しながら、いろいろなトピックについて学習することにより、外国の文化をより深く理解する。読んだり聞いたりする学習の他、グループで問題解決をする学習も含む。 到達目標は以下の3点である。 1. 日常生活でのコミュニケーションで用いられる語彙・句表現や場面に応じた表現を身につけ、それらを使えるようになる。3. リスニングでは自然なスピードで話される英語の聞き取りができるようになる。 3. 自分の意見を適切に表現できるようになる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目 国際関係 選択科目	英語（総合）B	<p>本授業では、英語の運用能力をバランス良く伸ばし、使える英語を意識してコミュニケーション能力を高めていくことを目的とする。前期に続き、いろいろなテーマを扱って、コミュニケーションに必要な単語や表現法を学ぶだけでなく、文化や社会問題などにも焦点あて、グループ内で意見をまとめ自分の意見を述べる練習も行う。</p> <p>到達目標は以下の3点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活でのコミュニケーションで用いられる語彙・句表現や場面に応じた表現を身につけ、それらを使えるようになる。 2. リスニングでは自然なスピードで話される英語の聞き取りができるようになる。 3. 自分の意見を適切に表現できるようになる。 	
	ワールド・カルチャーA	<p>DVDの素晴らしい映像とともに、地球や人類の記録のエッセンスにふれるとともに、世界遺産の抱える環境や開発や民族の問題にも目を向けることにより、問題意識が高まり、異文化コミュニケーション能力を向上させることができるようになる。また、様々な問題解決やアクティビティを通じて、聞いて読んで話して書く英語の4技能を高めることができるようになる。「語い」についてはトピックごとのキーワード、使用頻度が高い単語を整理する、「リスニング」については会話の聞き取り、「リーディング」については段落の内容を読み取る、「ライティング」については自分の意見・感想をまとめることを目指す。</p>	
	ワールド・カルチャーB	<p>前期に続いて世界遺産IIのDVDの素晴らしい映像とともに、地球や人類の記録のエッセンスにふれるとともに、世界遺産の抱える環境や開発や民族の問題にも目を向けることにより、問題意識が高まり、異文化コミュニケーション能力を向上させることができるようになる。また、様々な問題解決やアクティビティを通じて、聞いて読んで話して書く英語の4技能を高めることができるようになる。「語い」についてはトピックごとのキーワード、使用頻度が高い単語を整理する、「リスニング」については会話の聞き取り、「リーディング」については段落の内容を読み取る、「ライティング」については自分の意見・感想をまとめることを目指す。</p> <p>前期のワールド・カルチャーAと授業の概要、目的はほぼ同じであるが扱うトピックは異なる。A、Bを通して現代の言語事情、世界情勢、文化事情に注目する。</p>	
	実用英語 A	<p>基礎的な実用英語能力（読解、文法、リスニング、語彙、語法）を伸ばすツールとしてTOEIC形式の演習を行う。問題演習を通じて、基礎的な英語の復習をするとともに、ビジネス・コンテキストのコミュニケーション（Eメール、広告、通知、メモ、案内等）に触れる。企業が新入社員に期待するTOEICのスコアは約550点であるのに対し、大学生の平均スコアは440点である。検定試験が語学学習のすべてではないが、本授業を、英語を使う仕事に就きたいと考える学生の、自主学習、そしてスコアアップのきっかけと位置付ける。</p>	
	実用英語 B	<p>映画『Love Actually』を題材に用い、日常的英会話で使われる基礎的な文法・語彙・句表現などを学んでいく。日常生活でのコミュニケーションで用いられる語彙・句表現や場面に応じた表現を身につけること、またそれらを使えるようになること、リスニングでは自然なスピードで話される英語の聞き取りができるようになること、イギリス英語・アメリカ英語を中心に、さまざまな英語のバリエーションに慣れること、動画とスクリプトからストーリーの内容を把握し、サマリーが作れるようになること、以上を到達目標とする。</p>	
	ファッション英語 A	<p>本授業ではファッションに関する研究および仕事で使用するESP（English for Specific Purpose; 特定の目的のための英語）ファッション英語語彙・表現を修得することをめざす。ESPファッション/プロジェクト・ベースによる言語活動を行うとともに国際ファッションコンペについて学び、コンペ参加をシミュレーション学習する過程で英文ライティングおよびプレゼンテーションを行う。授業で扱うハンドアウトや作品はファイルに収め、学習ポートフォリオとする。</p> <p>ファッション関連表現および記事を理解し英語での指示に従うこと、記事をもとにディスカッション、プレゼンテーションができること、英文履歴書の作成の基礎を修得することを目指す。</p>	
	ファッション英語 B	<p>ファッション英語Aで学んだことをベースとし、ファッションに関する研究および仕事で使用するESP（特定の目的のための英語）ファッション英語語彙力・表現力を高めることをめざす。ファッション関連表現および記事を理解し、英語での指示に使えること、生地をもとにディスカッションおよびプレゼンテーションができること、基本的な英文メールや書類作成ができるようになることを到達目標とする。授業で扱うハンドアウトや作品はファイルに収め、学習ポートフォリオとする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目 国際関係 選択科目	フランス語（総合）A	フランスの歴史と文化を追いながら、日常生活とファッションに関する基本語彙を習得する。各テーマごとに1回目は解説、2回目は発音・演習として、着実な進歩を目指す。到達目標は以下の4点である。日常会話、ファッション関連で使用頻度の高い名詞・動詞・形容詞300語の習得。綴りは全て英語と併記で覚え、フランス語と英語の綴りと発音の違いを明確にする。フランス筆記体を読み解き、書くことができる。Web辞書、Web翻訳の問題点を理解する。	
	フランス語（総合）B	大学図書館のフランス語書籍や、インターネットサイトの中から各自研究課題を見つけ、その内容を理解し、「見せるレポート」として発表する。平行して、服飾文化を取り巻く社会問題、音楽、美術、映画、料理など新鮮なフランス語学習素材を通して、解説と発音・書き取り演習を交互に繰り返す、全員の着実な習得を目指す。到達目標は以下の3点である。日常会話、ファッション関連で使用頻度の高い名詞・動詞・形容詞300～400語の習得。綴りは全て英語と併記で覚え、フランス語と英語の綴りと発音の違いを明確にする。フランス筆記体を読み解き、書くことができる。	
	ファッションフランス語 A	ファッションに関するフランス語の基本語彙と文法を習得する。テーマごとに1回目は解説、2回目は発音と演習として、着実な進歩を目指す。シャネル、ヴィトン、ゴルチエなどのアトリエやコレクションの映像、公式サイトを見てキーワードの収集を行う。フランス人学生との交流も試みる。到達目標は以下の2点である。関連単語200語を英語と併記できるようにし、正しく発音できること。アトリエ現場で使われる基本的なファッション用語が聞き取れること。	
	ファッションフランス語 B	ファッションの背景にある歴史、社会、経済、芸術に目を向けて幅広い語彙を習得する。各テーマごとに1回目は画像・映像を活用した解説、2回目は語彙の発音と演習として理解を深めていく。フランス人学生との交流も試みる。到達目標は以下の3点である。ファッション誌やさまざまなフランス語の資料を自力で読み解けること。服飾関係の映像から必要な単語を聞き取れること。フランス語のウェブサイトから必要な情報を検索できること。	
	中国語（総合）A	一年生の総合ⅠとⅡの内容をレベルアップした中国語文の構築や品詞の働きなどを充実させる。特殊な文法文型を深めながら中国語作文を自由に活用できるように授業を進め、中国語の聞く、話す、書く、読む総合力を高めることを目標とする。授業では中国語の複文構造、等位複文、偏正複文、多重複文、比較文、常用疑問詞の呼応表現、常用副詞、補語の種類と働き、方向補語、特殊な存現文の伝達機能等について学ぶ。これらの学修を通して豊かな表現力を磨いていく。	
	中国語（総合）B	中国語（総合）Aで学んだ内容を実践に応用できるようにする。教材文を使うと同時に中国語圏のニュース記事などの新鮮な話題を取り入れた模範文に合わせて勉強し、文章翻訳についても新たに拡張する。大学2年生の中国語レベルの文章力を身につけることを目標とする。授業では特殊文、様態補語、可能補語、選択複文、受身文、転折複文、使役文、連動文の構造、常用副詞の応用について学ぶ。これらの学修を通して豊かな表現力を磨いていく。	
	中国語（会話）A	中国語（会話）Ⅰ・Ⅱで慣れたリスニング・シャドーイングの発話練習の拡張をはかり、教材文中の日常臨場感がある言葉内容を会話題材にして授業を進める。中国語の発話能力を高め、有用性のある言葉でコミュニケーションができることをめざす。授業前半では名前、干支、年齢、挨拶、移動手段、趣味の聞き方、答え方を学び、後半では伝聞、所在、比較、予定を尋ねる、相手を誘う、招待する、約束をする、料理を注文する時の表現を学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目 (選択科目)	国際関係 中国語(会話) B	語彙やフレーズを確実に把握した上で会話の応用範囲を広げる。教材文のほかに中国の衣食住文化に触れ実践的な表現内容を新たに学修する。聞き取った内容を正確に伝えられ、自分の意思でフリートーキングができることをめざす。授業前半では病院、値切る、褒める、謙遜するときの表現を学び、後半では比較文、反語文、使役文、現在進行形について学ぶ。将来の社会人として持つべき豊かな表現力を磨くために必要な科目である。	
	英語(総合) I	基本的な英語の語彙や文法を確認し、リーディングとリスニングの練習をする。オフィスを舞台にしたストーリー展開になっているテキストを使用するため、ビジネス英語の基礎も学ぶことができる。あわせて、読解演習として、ココ・シャネルの伝記を読み、英文に親しみながらファッション・デザイナー、ココ・シャネルについても学ぶ。 以下の6点を到達目標とする。音読や筆写といった着実な英語学習の方法が定着する。基本的な文法が確認できる。ビジネスに関する基本的な単語や表現が修得できる。ビジネスでの会話に使える平易な英語表現が修得できる。読解は、英文の構造を理解した上で、その文の意味をとることができる。パラグラフごとの要約ができるようになる。	
	英語(総合) II	英語(総合) I(前期)に引き続き、基本的な英語の語彙や文法を確認し、リーディングとリスニングの練習をする。オフィスを舞台にしたストーリー展開になっているテキストを使用するため、ビジネス英語の基礎も学ぶことができる。あわせて、読解演習として、ココ・シャネルの伝記を読み、英文に親しみながらデザイナー、ココ・シャネルについても学ぶ。 以下の6点を到達目標とする。音読や筆写といった着実な英語学習の方法が定着する。基本的な文法が確認できる。ビジネスに関する基本的な単語や表現が修得できる。ビジネスでの会話に使える平易な英語表現が修得できる。読解は、英文の構造を理解した上で、その文の意味をとることができる。パラグラフごとの要約ができるようになる。	
	基礎英会話 I	日常生活の様々な場面で、基本的な英語を使ってコミュニケーションをする練習をする。特に、ファッションに関係のあるシチュエーションでの会話を練習するとともに、ファッションに関する単語や表現を学修する。リスニング・スピーキングを中心に練習する。具体的には色、模様、服の素材やコーディネート、トレンド等々ファッションを題材としての会話を練習する。 以下の2点を到達目標とする。日常生活の様々な場面で行なわれる英会話の定型表現を暗記し、自分の言葉として話せるようになる。ファッションに関する単語や表現が修得できる。	
	基礎英会話 II	基礎英会話 Iに引き続き、日常生活の様々な場面で、基本的な英語を使ってコミュニケーションをする練習をする。特に、ファッションに関係のあるシチュエーションでの会話を練習するとともに、ファッションに関する単語や表現を学修する。リスニング・スピーキングを中心に練習する。このIIの授業では、旅行、ホームステイ、食事、買い物等の場面を想定した会話を練習し、さらにはファッションショーやインタビューの場面も想定する。 以下の2点を到達目標とする。日常生活の様々な場面で行なわれる英会話の定型表現を暗記し、自分の言葉として話せるようになる。ファッションに関する単語や表現が修得できる。	
	フランス語(総合) I	本授業は指定のテキストに沿ったかちで文法の基礎を学んでいく。「前回内容の確認⇒今回の内容」という流れで毎回行うことから、出席すればするほど力が定着し、フランス語(会話) Iがより理解できるようになっていく。授業担当者の仏系PR会社における実務経験を活かし、トレンドを意識した文例・教材を積極的に取り入れる。 本授業を受講することによってフランス語への抵抗感をなくすことができる。達成目標として、基本的な文章の理解・作成ができること、また、服飾業界で活躍するための資質・能力を養い、広く深い教養と総合的判断力を培うことを目指す。	
	フランス語(総合) II	本授業は、出席すればするほど力は確実に定着し、フランス語(会話) IIがより理解できるようになっていくように構成されている。最終講義では、まとまった量のフランス語の文章を自分で作成し、各自発表を行う。 本授業を受講することで11月中旬までに、実用フランス語検定試験5級に挑戦できるレベルの基礎文法を習得することができる。達成目標として、まとまったフランス語の文章を自分で作成し発表できること、また、服飾業界で活躍するための資質・能力を養い、広く深い教養と総合的判断力を培うことを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目 (選択科目)	国際関係 フランス語 (会話) I	<p>本授業では、聞き取り力をつけるとともに、文を作って発音する練習を重ね、自らすすんでフランス語を話せるようにしていく。自然にフランス語で挨拶を交わせるようになるためには努力が必要である。出席すればするほど力は確実に定着しより理解できるようになるだろう。</p> <p>本授業を受講することで、数字や簡単な文を聞き取って正しく書くことができ、自分の作った文を読むことができるようになる。達成目標として、6月中旬までに実用フランス語検定試験5級に挑戦できるレベルの基礎文法を習得することを目指す。</p>	
	フランス語 (会話) II	<p>本授業では、聞き取り力をつけるとともに、文を作って発音する練習を重ね、自らすすんでフランス語を話せるようにしていく。自然にフランス語で挨拶を交わせるようになるためには努力が必要である。出席すればするほど力は確実に定着しより理解できるようになるだろう。</p> <p>Iと同じく本授業を受講することで、基本的な簡単な文を聞き取って正しく書くことができ、自分の作った文を読むことができること目指すが加えてIIでは、服、色、季節等々の語いを増やし、さらに時制についても学び会話内容の範囲を広げて行く。</p>	
	中国語 (総合) I	<p>中国語と日本語との構文上の大きな相違点を理解し構文の仕組みから学びはじめる。教材文や模範文を使って基礎文法文型を中心に勉強し読み書きを合わせて授業を進める。中国語文の基礎、文法的単位、文の分類、文の基礎構文について学ぶ。</p> <p>常用語彙と文法文型を操って中国語基本文の組み立てができるようになることを目指す。</p> <p>将来の社会に向かって語学を操り、様々な適応力を可能にすることを培い社会人が持つべき豊かな表現力を身につける。</p>	
	中国語 (総合) II	<p>総合IIの前半は中国語の構文に必要な品詞、語彙と文法規則を学び、後半は中国語の文章力を身につけるための中国語と日本語の双向翻訳のトレーニングを行って授業を進める。品詞、名詞、動詞、形容詞、数量詞、副詞、助詞、介詞、接続詞、常用フレーズ、構文構成、複文について学ぶ。</p> <p>文法文型をしっかり学ぶことを通して中国語文の構成や翻訳ができるようになることを目指す。</p> <p>将来の社会に向かって語学を操り、様々な適応力を可能にすることを培い社会人が持つべき豊かな表現力を身につける。</p>	
	中国語 (会話) I	<p>中国語発音の特徴、ローマ字表記規則から学びはじめ、会話に必要な語彙や規範的なフレーズや基礎語句を併せて学ぶ。授業は聞く、話す、書くなどの形式で進める。具体的な内容としては中国語の音声仕組み、中国語アルファベットの認識、表記方、人称代名詞、日常挨拶、名詞述語文、肯定文、否定文、疑問文、数と年・月・日・時刻、動詞述語文、形容詞述語文、主述述語文について学ぶ。</p> <p>本授業の達成目標として、正しい発音をマスターすること、将来の社会に向かって語学を操り、様々な適応力を可能にすることを培い、社会人が持つべき豊かな表現力を身につけることを目指す。</p>	
	中国語 (会話) II	<p>常用語彙や文型などを増やし、リスニング・シャドーイング練習で正しい発音を把握する。聞く力、会話力を身につけるために語彙とフレーズを暗誦するなどの方法で授業を進める。具体的な内容としては常用介詞、動詞連用文、動作の言い回し、目的語、完了形、三大構造詞、二重目的語、比較文の表現について学ぶ。</p> <p>本授業の達成目標として、中国語ができる限り聞き取れる、話せる能力を伸ばすこと、将来の社会に向かって語学を操り、様々な適応力を可能にすることを培い、社会人が持つべき豊かな表現力を身につけることを目指す。</p>	
	日本語 I	<p>本学留学生の日本語の上達を目指すための授業である。日本語検定試験をサポートする。社会で遭遇すると思われる状況、場面での様々なタスクを行う。関連したコラムを読んで、日本社会への関心・理解を深める。</p> <p>本授業を受講することにより、日本語コミュニケーション能力が向上し、日本語を使って、積極的にコミュニケーションができるようになる。状況や場面に応じて適切に表現を使い分けられるようになる。情報や意図、感情を的確に理解し、概要をとらえ、スムーズに会話を発展させられるようになる。自分の意見を日本語で表現、伝達ができるようになる。最終目標としては、自然で流暢な発話ができるようになることを目指す。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目 国際関係 (選択科目)	日本語Ⅱ	<p>「日本語Ⅰ」に引き続き、本学留学生の日本語の上達を目指すための授業である。日本語検定試験をサポートする。</p> <p>社会で遭遇すると思われる状況、場面での様々なタスクを行う。関連したコラムを読んで、日本社会への関心・理解を深める。</p> <p>本授業を受講することにより、日本語コミュニケーション能力が向上し、日本語を使って、積極的にコミュニケーションができるようになる。状況や場面に応じて適切に表現を使い分けられるようになる。情報や意図、感情を的確に理解し、概要をとらえ、スムーズに会話を発展させられるようになる。自分の意見を日本語で表現、伝達ができるようになる。最終目標としては、自然で流暢な発話ができるようになることを目指していく。</p>	
教職に関する科目	教師論	<p>受講者がこれまでに経験してきた、学校教育の中での教師像を確認し、更にそれを乗り越えた専門職としての教師像を再構築していく授業である。公教育やそれに関わる教員の特徴を、歴史的な背景や問題を踏まえながら、現代の学校や教師が直面している課題も考察する。新聞記事などを利用したグループワークや、グループ発表も行う。</p> <p>現代社会の課題を踏まえて、教職の意義、教員の役割、教員の資質能力、また職務内容などを理解すること、そして受講者自身の問題として教員という職業についての理解を深めることを目標とする。</p>	
	教育心理学	<p>幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導について学習する。具体的には発達と教育、特別支援教育と発達障害、適応の心理と教育について、動機づけ、教育評価の意義と方法について学ぶ。</p> <p>到達目標は以下の2点である。幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解し、発達を踏まえた学習の形態や概念、主体的な学習活動を支える指導について理解する。教師としての生徒とのかかわり方の基礎を体験的に学習し習得する。</p>	
	教育制度論	<p>本授業では、「教育」を「学ぶ立場」から、初めて「教える立場」に転換して学ぶ皆さんに、教育制度の仕組みと構造を総括的に講義する。また、教員養成に制度化されている介護等体験準備（評価含む）も本授業内で実施する。</p> <p>授業の到達目標は以下の3点である。①教育制度の関連法規である「日本国憲法23条・26条を代表とする教育関連条文」、「学校教育法1条を代表とする学校教育法内の教育関連条文」、「教育基本法の55のキーワード」「その他制度に関する重要事項」を習得する。②日本の教育制度の基本構造を知る。③授業を通して、日本の「学校教育」の現状について知る。</p>	
	教育原理	<p>本講義は、教職課程の授業であることから、教師になることを前提として、「教育とは何か」という根本的な問いについて考え、さらに学校で教育が行われていることの意味について議論しようとするものである。講義が中心であるが、授業内容の確認のためディスカッションを行う。</p> <p>到達目標は以下の2点である。①自分の言葉で「教育」を定義し、今日の教育目的について理解できるようになる。②学校の発達について知り、学校の現代的な課題を理解できるようになる。</p>	
	教育課程論	<p>1年生の「教育制度論」を引き継ぎ、学校教育の制度・行政・課程について「学習指導要領」に視点を当てて考察して行く。介護等オリエンテーション（評価も含む）も本授業内容に含める。</p> <p>到達目標は以下の5点である。①「学習指導要領」の歴史の変遷を知る。②これまでの「学習指導要領」の総則の主眼内容を知る。③高等学校の「家庭」の指導内容を知る。④家庭科必修漢字を習得する。⑤介護等体験の事前学習内容を知る。</p>	
特別支援教育概論	<p>通常の学級にも在籍している、発達障害や軽度知的障害を始めとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上・生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。</p> <p>到達目標は以下の3点である。①特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達について理解できる。②特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法が理解できる。③障害はないが、特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上・生活以上の困難とその対応が理解できる。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職に関する科目	道徳の指導法	<p>特別の教科「道徳」は、これまで私たちが受けてきた「道徳」と何がちがうのだろうか。そもそも、「道徳」とは何で、それを教科として学校の課程に設置することにどのような意味があるのか、そして実際にどのように授業を行っていけばいいのか、歴史や現在の社会状況を踏まえて検討していく。また実際の授業を構成展開していくために、模擬授業やグループワークを通じて考えていく。</p> <p>到達目標は以下の2点である。①道徳教育の歴史的背景を理解する。②中学校の「道徳」の学習指導案を作成する基礎知識を修得する。</p>	
	生徒指導論(進路指導を含む)	<p>本授業は、学校の二大教育機能の1つである「生徒指導」と、生徒の生き方・あり方に関わる「進路指導・キャリア教育」の指導法を学習するものである。その意義や原理を理解した上で、生徒全体への指導方法(ガイダンス)、個別の課題を抱える生徒の指導方法(カウンセリング)の基礎をそれぞれ理解し、その具体的な対応方法を実践的に検討する。</p> <p>到達目標は以下の3点である。①組織的に生徒指導を進め、生徒の自己指導能力を育成するために必要な知識・技術を指導実践に活用できるようになる。②キャリア教育、進路指導についての実践指導、教育活動計画ができるようになる。③生徒指導、進路指導・キャリア教育の視点に立った各授業等の構成、評価による指導改善の推進、ガイダンスとカウンセリングの充実、組織的体制に関わるに必要な知識を指導実践に活用できるようになる。</p>	
	教科教育法基礎(家庭)	<p>本学では、3年次に履修する「教育方法論」及び「教科教育法(家庭)」において、授業技術・方法についての考察を「家庭」という教科に視点を当てて実施する。2年次に履修する本授業ではその基礎作りを行う。具体的には、ミニマイクロティーチングを通して、授業計画・授業実施・授業評価・授業改善に向けての基礎知識・方法を身に付ける。</p> <p>到達目標は以下の3点である。①ミニマイクロティーチングを通して、授業者を経験し授業方法等の課題が発見できる。②実際の授業に向けて、授業準備の大切さがわかる。③授業に必要な発声力、視線力等基本技術を知る。</p>	
	教育現場でのICT活用	<p>教育現場におけるICT(情報通信技術)の活用について、小中学校教員としての実務経験を活かし、これまでの経緯と「GIGAスクール構想」によって児童・生徒に1人1台の端末配布が進んでいる現状に基づいて、授業における児童・生徒および教員によるICT活用の他、端末を効果的に使った教材研究・指導の準備と授業中の指導、学習評価に関する活用、校務における活用や教育データの活用を取り上げる。また、変化の激しい情報社会を自ら生きていくために必要な資質・能力である情報活用能力について、基礎的な理解、具体的な指導法、教育課程上の位置付けについて解説する。本授業では、講義および視聴覚資料による解説・事例紹介に加え、受講生が自らICT機器を活用し実践的かつ体験的に学修する。</p>	
	特別活動の指導法	<p>学校教育とは単に教科授業だけではなく、学級活動、生徒会活動、運動会や修学旅行などの各学校行事など教科外の集団的な特別活動も重要な教育内容に含まれる。本講義では特別活動の位置付け、目標、意義、内容、方法に関する基礎的な理解を深め、その実践的な計画力、指導力を身に付けることを目指す。講義だけではなく、様々な集団活動の実践も採り入れる。</p> <p>到達目標は以下の3点である。①特別活動に関する基本的知識を実践に活用できるようになる。②学級活動、生徒会活動、学校行事、部活動の指導の計画、実践指導ができるようになる。③生徒自治や生徒の主体的な活動の教育的意義について自身なりの考え方を提示できるようになる。</p>	
	教育方法論	<p>マイクロティーチングを通して、教育の方法・技術について理論的かつ実践的に分析・考察し、授業者としての授業設計と授業運営していくための基礎知識・方法を身に付ける。</p> <p>到達目標は以下の3点である。①指導案の基礎を知り、授業略案を作成できるようになる。②実際に授業を実施することで、授業準備の大切さがわかる。③授業に必要な発声力、視線力等計16項目の授業技術について考察し、必要な技術が身につく。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職に関する科目	家庭科教育法（基礎）	<p>本授業は、教員免許状取得のための教職課程必須科目であることをふまえて、家庭科教員として必要な資質・能力を高めることを目的としている。また、授業担当者の教育現場における実務経験を活かし、現状を把握して対処方法等を探る。最終授業で学習指導案のまとめとグループディスカッションを行い、家庭科教育法・学習指導要領のまとめを行う。</p> <p>家庭科の目標および内容を踏まえ、年間指導計画の立案の仕方や学修指導案の作成の仕方の基礎を学び、実際に作成できるようになること、また、効果的な教材についても知識を得ることを目指す。</p>	
	総合的な学習の時間の指導法	<p>学校教育における重要な教育活動である総合的な学習の時間について、教育課程上の位置づけや教育的意義、計画や指導の方法等について学習する。また、それら基礎的知識をもとに、主体的・対話的で深い学びを基盤とした探究的な学習に関わる計画、指導の実践的な資質・能力を身につける。</p> <p>到達目標は以下の3点である。①総合的な学習の教育的意義、教育課程における位置づけ、特徴、学習指導要領における目標、内容について説明できる。②総合的な学習の年間指導計画、指導方法、評価方法を実践的な視点から構成することができる。③総合的な学習を中心として主体的・対話的で深い学びを実現できる教育課程を構成することができる。</p>	
	家庭科教育法	<p>教員免許状取得のための教職課程必須科目であることを主眼に、家庭科教員として必要な資質・能力を高めることを目的とし、学習指導案の立案、評価方法、効果的な教材の立案・作成、実技指導のための教材作成について学ぶ。また、授業担当者の教育現場における実務経験を活かし、現状を把握して対処方法等を探る。</p> <p>中学校・高等学校家庭科の目標および内容を踏まえ、高等学校学習指導案・試験問題を作成し、効果的な教材を用いて授業を行う力量を身につけることを目指す。</p>	共同
	教科教育法（家庭）	<p>教育実践の現場で通用する実践的な教授技能（授業設計・授業技術）を身につける。なお、2月に「特別授業・教壇模擬演習」プログラムを実施し、現職の家庭科教諭の指導を受ける。</p> <p>到達目標は以下の4点である。①指導案の基礎がわかり、授業略案が作成できるようになる。②実際に授業を実施することで、授業準備の大切さがわかる。授業に必要な発声力、視線力等視点表で取り上げる16項目の授業技術が身につく。③授業後の視点表によって、生徒役の意見を聞き取り今後の課題が発見できる。④授業中に学校教育現場で起こりうる状況を意図的に作り出し（地震が起こるなどのサプライズ）、意見交換によってその対応を身につける。</p>	講義30時間 演習30時間
	教育法規	<p>重要教育関連法規を具体的に一つ一つ確認して行く。それによって、教育制度の中で「学校」「教育」がどのように位置づけられているか見えてくる。特に、教員採用試験受験を考えている学生には必ず受講してほしい。4年次の「白井ゼミ」履修予定者はこの科目履修を条件とする。</p> <p>到達目標は以下の2点である。①「教育基本法」のキーワードをすべて暗誦できるようになる。②「学校教育法」「学校教育法施行規則」「学校保健安全法」「地方公務員法」「教育職員特例法」等の重要ワード約250ヶ所の穴埋めを完成できるようになる。</p>	
	教育相談（カウンセリングを含む）	<p>教育相談は、幼児、児童生徒が集団の中で適応する力を育み、個性や人格の成長を支援する教育活動である。この授業では、発達に即して心理的特質や課題を捉え、支援に必要な基礎的知識を身につける。</p> <p>教育相談の意義と理論を理解し、教育相談の具体的な進め方や、教育相談の基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的知識）を理解することを目標とする。さらに、カウンセリングの技術が、教育現場や社会でどのように生かせるかを学んでいく。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職に関する科目	教育実習（事前事後指導を含む）	前半においては、「中学校・高等学校の实地教育実習」に向けての事前指導に充てる。具体的には「实地教育実習」のプロセスを知り、自ら積極的に計画を立て、予想される実践に備える。後半においては「实地教育実習」の経験を振り返る。また事後指導は「教職実践演習」に引き継がれる。 到達目標は以下の3点である。①「实地教育実習」に向けての準備内容を知る。②「实地教育実習」の目的・活動を知るとともに「教員」としての意識向上が図れる。③「教育実習報告会」へ向けての準備活動や自己評価・他者評価を通して、「教員」としての適性を知る。	演習26時間 講義180時間
	教職実践演習（中等）	本授業は「教員免許状取得のための教職課程完結演習」と位置付け、以下のことを行う。①「教育実習報告会」の準備を行う。②履修開始段階から作成した「教職課程履修カルテ（ポートフォリオ）」の整理と今後の課題をまとめる。③実習経験を踏まえて、改めて教科（「家庭」）教育法の指導法を考える。④「教員」の使命等について、教科外教育も含めて改めて考える。⑤授業全体を通して、自らの教員としての資質を考える。 さらに、①实地教育実習の体験のまとめが出来たか。②4年間で教育実践力を身に付けることが出来たか。③4年間で（教育及び教材等の）研究的態度を養うことが出来たか。④最終学年で自らの教員としての資質を判断することが出来たか。この4点について、自己評価を通して今後身に付けるべきことを確認する。	
博物館に関する科目	生涯学習概論	学芸員という専門職を目指すにあたり、「生涯学習」について、学習者の学びを援助、促進するという視点から教育学的に考えていく授業である。その上で、生涯学習の現場に繋がっていくような、政策理念や制度の知識にも触れていく。授業ではフィールドワーク報告やグループディスカッションなども取り入れる。 生涯学習論の基礎的な知識を学び、学芸員として勤務する上での素地となる生涯学習理論を習得することを到達目標とする。	
	博物館概論	学芸員課程最初の講義である。本授業では博物館について、学芸員について、博物館学について概説する。歴史的、社会的な面から「博物館」を理解し、現代博物館の必要性、存在意義を、今日的課題を踏まえて理解、考察する。また、博物館における各機能、及び学芸員業務等を博物館学観点から概括的な知識の習得を目指す。 「博物館」の今日的課題と博物館学の理論・方法論、博物館史等の理解と習得、学芸員としての基本的知識の習得、「博物館」をめぐる問題意識の向上を到達目標とする。	
	博物館経営論	博物館の経営について学習する。多様化する博物館の経営体制について認識を深め、今日の博物館経営をめぐる諸相を把握し、今、博物館に何が求められているのか、また博物館本来の存在意義について学習する。授業終盤には実在する博物館を挙げて経営論の観点よりプレゼンテーションを行う。 博物館の適切な機能や経営体制について把握し、ミュージアムマネジメントについての基礎的事項を理解した上で、現代博物館を多角的な視点で考察できるようになることを目標とする。	
	博物館資料論	博物館において資料は必要不可欠な存在である。どんな博物館でも「資料」を有し、コレクションをなしている。今日の博物館のコレクションは多種多様であり、一口で「博物館」と言ってもその範囲は極めて大きい。本講では現代博物館が扱う資料（コレクション）について、博物館の歴史とともに体系的に学習する。また、資料収集・整理保管・調査研究・教育普及という4つの博物館機能（活動）を通して、いわゆる実物（1次資料）から2次資料が発生していくことを理解し、それぞれの機能（活動）における1次資料・2次資料の特性・役割を学習する。	
	博物館資料保存論	博物館資料論を基礎として、博物館資料の保存の意義、目的、資料保存の前提としての劣化要因とその対策、資料の材質に応じた劣化対策、保存技術等について、論理的に授業を進める。 学芸員が日常的に取り扱う博物館資料について、収集、保管、調査研究、展示他の活用といった博物館機能の各局面において、資料保存の理論と実践法を習得し、時代に適応できる博物館学芸員としての資質を得られるようになることを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
博物館に関する科目	博物館展示論	展示は博物館への導入であると同時に、博物館の顔でもあり、その良し悪しが集客力に大きくかかわってくる。今まで来館者として見ていた「博物館展示」を、学芸員の立場で創造していく皆さんに、長年地域博物館に学芸員として携わってきた実務経験を活かして、博物館展示の意義や歴史、実際の事例等を総合的に講義する。一人でも多くの観覧者を集客し、少しでも長く館に滞留して、興味や好奇心を起こさせる展示の開発や運営ができる学芸員の育成を目指す。	
	博物館教育論	博物館法の基本法が社会教育法であるところから、博物館における教育は博物館の総体であると考えなければならない。したがって、博物館の基本機能は、すべて博物館教育を目的としている。つまり、収集・保存・研究は展示と教育を目的としているので、博物館教育論は博物館の最終機能となる。 展示は博物館教育の基本であるが、展示論は別途科目として存在するため、ここでは展示及び展示関連事業を基本とした教育諸活動に焦点をあてて理解を求める。	
	博物館情報・メディア論	博物館を「情報」「メディア」という語をキーワードに学んでいく。「情報」「メディア」という用語の理解の上、実際の今日の博物館での資料の情報化等「情報」の諸相、「情報」の伝達手段としての「メディア」の実際について学習していく。具体的にはコレクション・ドキュメンテーション、データベース化、デジタル・アーカイブ、情報管理と情報発信、インターネットを利用した他機関との連携、知的財産権、RFIDなどの新技術、メディアとしての博物館、視聴覚メディアについて学ぶ。 博物館における「情報」「メディア」についての基本的知識の習得、博物館活動における「情報」の本質について考察できるようになることを目標とする。	
	博物館実習	学芸員課程で習得した知識をもとに、実際の博物館実務の知識・技術を習得する。本学衣裳博物館での実務及び、学外実習旅行を行い、実際の博物館の現状を把握するとともに、学芸員としての資質向上を目指す。 その目標に向けてグループワーク（展覧会を企画する、ミュージアムグッズを考える、博物館ワークショップを考える）、実習旅行（神戸ファッション美術館、京都服飾文化研究財団等）、衣裳博物館実習（脱酸素処理、保存箱作成、調査・クリーニング）を行う。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

学校法人杉野学園 収容定員変更に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
杉野服飾大学				→	杉野服飾大学				
服飾学部	3年次				服飾学部	3年次			
服飾学科	200	30	860		服飾学科	200	30	860	
服飾表現学科	40	-	160		服飾表現学科	40	-	160	
					服飾文化学科	<u>40</u>	-	<u>160</u>	学科の設置(届出)
計	240	30	1020		計	<u>280</u>	30	<u>1180</u>	定員変更(160) (認可申請)
ファッションデザイン専攻科	10	-	10		ファッションデザイン専攻科	10	-	10	
計	10	-	10		計	10	-	10	
杉野服飾大学大学院				→	杉野服飾大学大学院				
造形研究科(M)	10	-	20		造形研究科(M)	10	-	20	
計	10	-	20		計	10	-	20	
杉野服飾大学短期大学部				→	杉野服飾大学短期大学部				
服飾学科	0	-	0		服飾学科	0	-	0	短期大学の廃止(認可申請)
計	0	-	0		計	0	-	0	
令和4年4月学生募集停止									
専門学校				→	専門学校				
ドレスメーカー学院					ドレスメーカー学院				
服飾造形科	70	-	140		服飾造形科	70	-	140	
アパレル技術科	30	-	90		アパレル技術科	30	-	90	
ファッションビジネス科	30	-	60		ファッションビジネス科	30	-	60	
高度アパレル専門科	15	-	60		高度アパレル専門科	15	-	60	
アパレルデザイン科	35	-	35		アパレルデザイン科	35	-	35	
計	180	-	385		計	180	-	385	
杉野幼稚園				→	杉野幼稚園				
3歳児	105				3歳児	105			
4歳児	105				4歳児	105			
5歳児	105		315		5歳児	105		315	
計	315		315		計	315		315	